



都林泉名勝圖會

四

E
163
5

道通文庫
文庫 6
1875
5



地
8
4

都林泉名勝圖會卷之四

目錄



平園八幡宮
 高雄神護寺
 納涼房
 二日阪
 練若臺
 羅波房
 定心石
 文物石
 秋茶月録
 足利十二世本像
 大寺神廟
 竹郎社
 三絶鐘
 猿窟
 榎尾平等心院
 石水院
 二加禪
 茶古蹟深瀬二平本
 深瀬石
 等持院
 法連亭
 衣笠山
 性生寺
 故心居
 梅畑導故菴
 地藏院
 秋暮紅葉風色
 榎尾高山寺
 苑官殿
 禪河院
 三尊院丹楓
 石去居
 梅若社
 芙蓉池
 衣笠殿

夜笠淨靈
三笑橋
西源院林泉
綾杉
花園社
妙心寺
法堂
四爪松
古鐘
什寶
玉鳳院
微笑菴

龍安寺
三島
方丈林泉虎子佛
東泉院
真田幸村塔
花園山亭
山門
天井蟠龍
雪江松
十景
美金鎧
花園法皇宸影
向山園師像

鏡容池
水引石
八景
久珠院
同家附寶器
頓阿法師古蹟
佛殿
毘盧藏
鐘銘
方丈畫
矢根寶劍
拈華室
祥老院殿魂舍

林四一

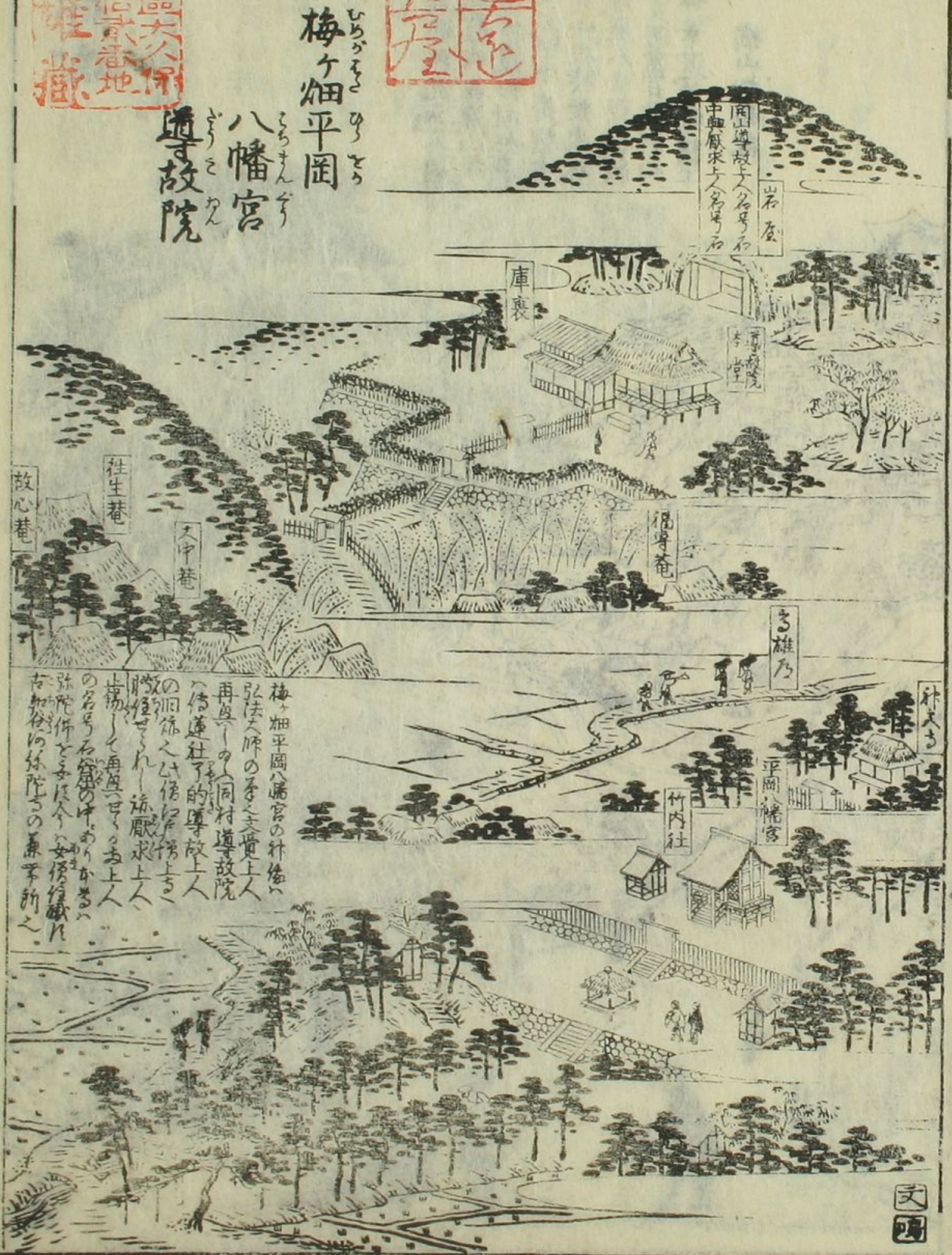
鐵田家塔
天授院
古鏡
授翁真景
記文
如是院
東海菴
大通院
海福院
麟祥院
芋喰僧都舊蹟
南浦畧傳
一休詩

武田家塔
什寶
古鏡
藤房卿髮塚
退藏院
衡梅院
靈雲院
蟠桃院
桂臺院
春浦院
大應園師塔
虛堂贊
後宇多院塔

龍馬鞍上
寶塔
經文切
碑石
善源院
龍泉菴
聖澤院
雜善院
太嶺院
大光院
安井邑龍翔寺古蹟
大應頌
賀陽門院塔

東京六条
蘇州
坪
雄
藏

名
所
考
証



梅ヶ畑平岡八幡宮の竹内社
弘法大師の寺に上人
再興すべし同村導故院
八幡宮の竹内社上人
の御願之に依りて
竹内社と改められ
古跡を再興すべし
上人の御願之に依りて
竹内社と改められ
古跡を再興すべし
上人の御願之に依りて

文四

都林泉名勝圖會卷之四目錄終

鹿苑寺
夕佳亭
銀河泉

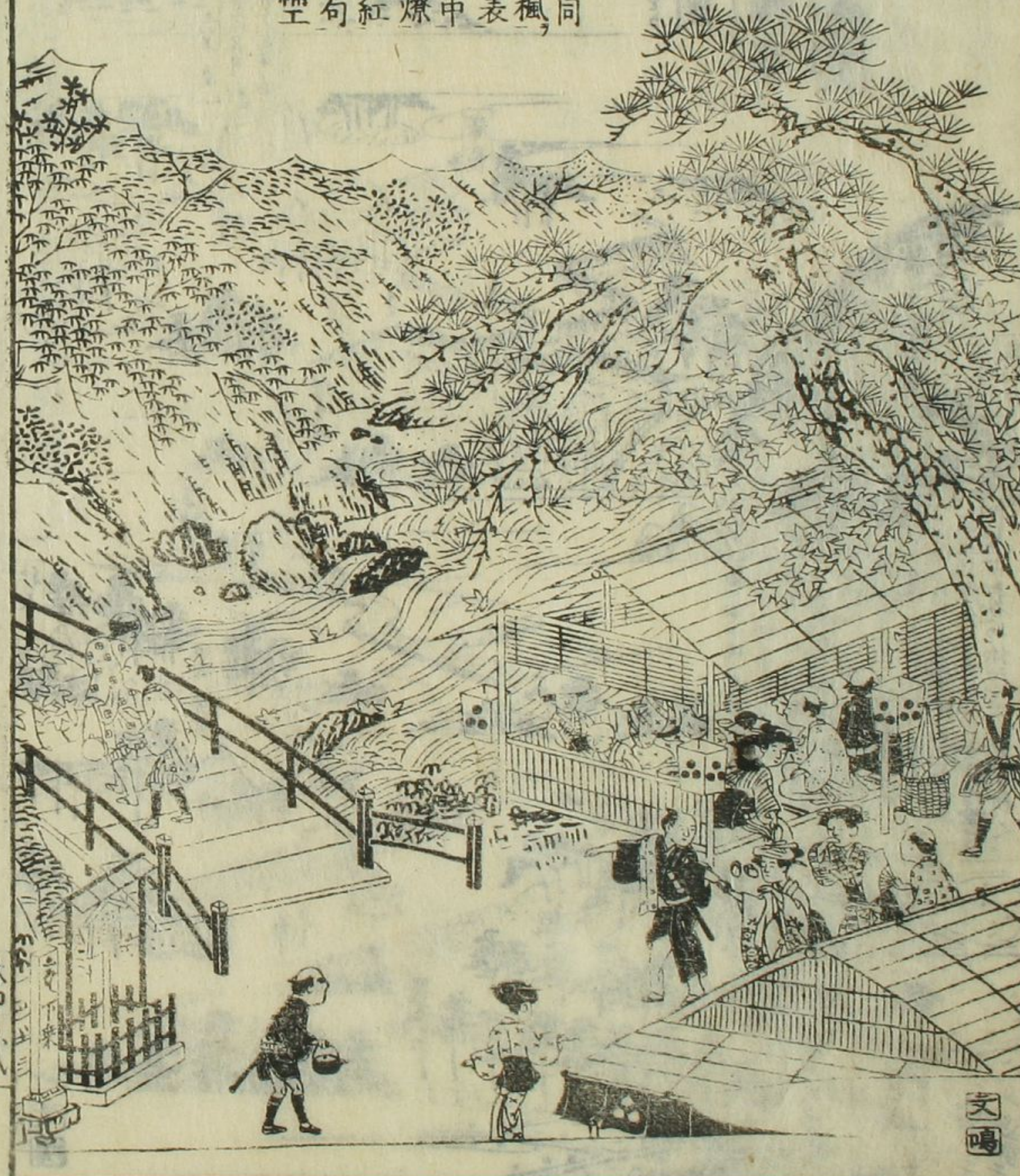
金剛
龍門滝
安民學

鏡湖池
岩下水
尾日社

林四

高雄
看丹楓

滿眼秋光画不同
風霜昨夜染山楓
已如霞彩凝林表
又似暎暎掛樹中
鳥怯投棲疑火煉
蝶飛不去訝花紅
賞遊盡日耽詩句
揮筆還羞錦繡工
橋山烟柳啟



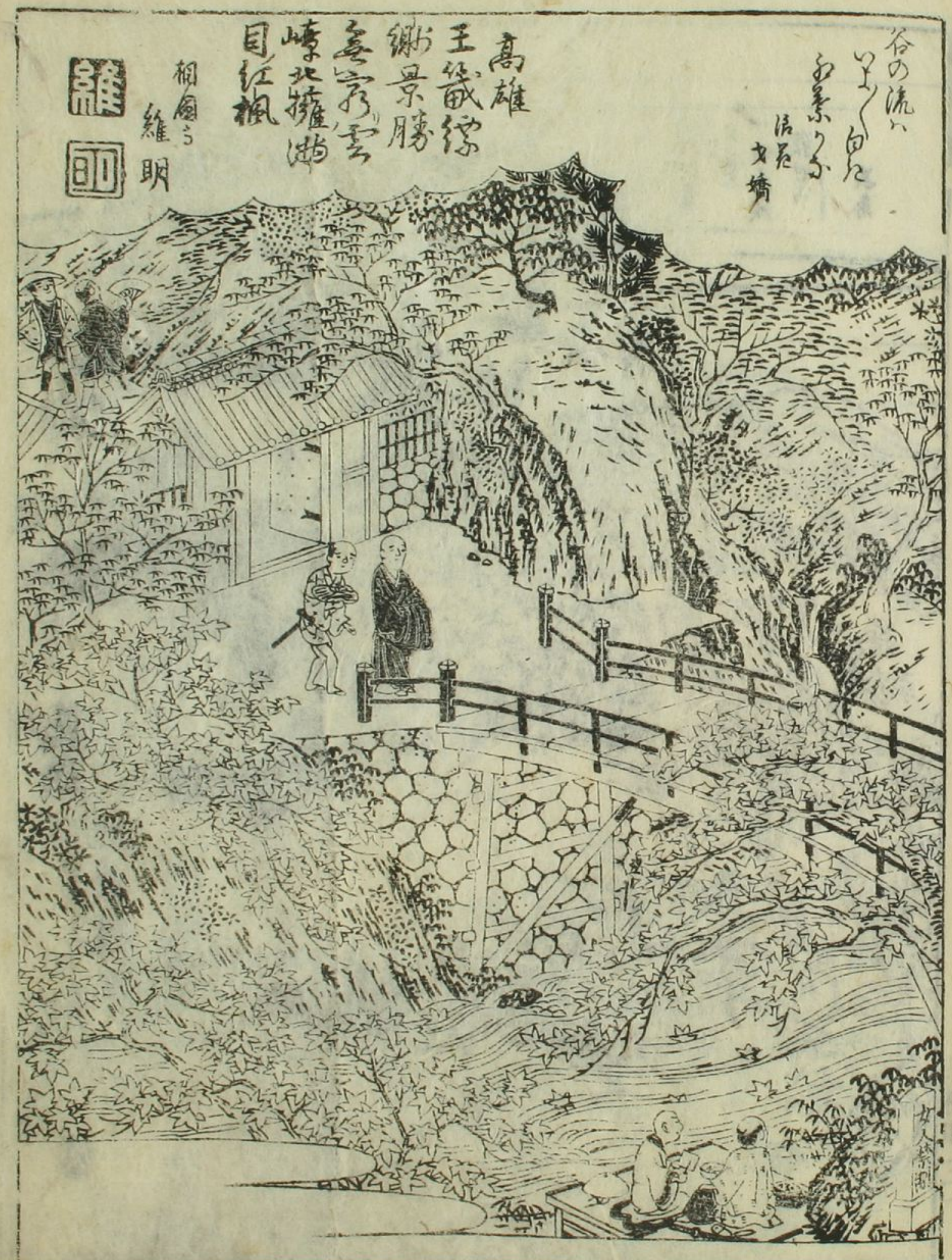
林四武

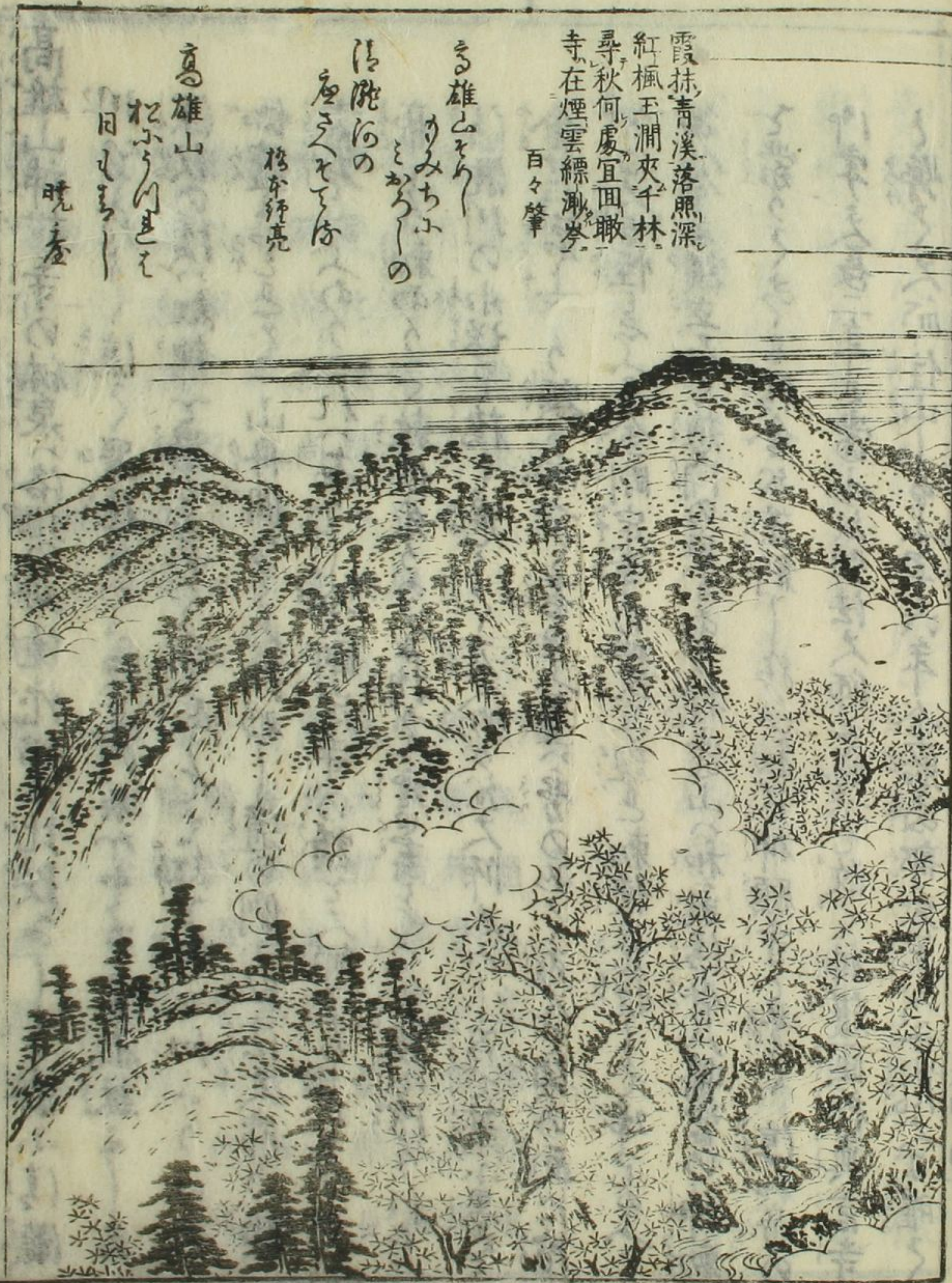
支鳴

谷の流
水素
流石
文嬌

高雄
王畿
緬景勝
雲
嶂北擁
目江楓

相
維
明





霞抹青溪落照深
 紅楓玉澗夾千林
 尋秋何處宜回瞰
 寺在煙雲縹渺岑

百々筆

高雄山

かみちふ

清隆河の

庵をてふ

松本鍾亮

高雄山

松ふらのまて

日とま

曉春



松林の香
 文貫
 松のま
 殺せの
 其角

高雄

地藏院

里

林四三

高雄山神護寺の林泉洛北の妙境化邦小比致さし寺系小清龍
 川に流るる流く飛鶴松のつたす河津をせりより楓林あり
 深秋の頃紅錦を曝さるる面すも紅と彩も似たりけし
 伽藍五重を山丹楓をぬ所あり道の側弘法大師の額
 書石にありこれに在り金剛定寺の額と大師書りめり
 帝より勅ありく敕使奉りて本物なりを思ふそく立頻小清龍を
 法流川の水塔も橋も危うく尺々大師志んり召て筆小墨を
 合せし石上より額に向く書り墨の旁のぬく飛んで額の面に
 あり人々怪むる金剛定寺の四文字現き勅使意悦して帰るる
 かん今も額立石も惣門の東あり梓當山和氣清曆八幡宮の神勅
 と蒙りてあり精舎を創し給ひ初神願寺と号く淳和帝の
 御宇之長二年當山弘法大師賜を改く神護國祚真言寺
 と號く大師住山し中平六年金胎支部密宗の宗風之を曜く

林四四

貴賤を度け什寶小大師の筆迹の山水は原風あり
 密灌の時あり瓜立の故實あり一宗みかたに瓜換りて用ふ之
 又當山の鳥鐘世に名高く本朝の名器なり三絶の筆や林次
 銘文の撰者菅原是善卿序詞橋廣相筆者藤原敏行
 なり其銘云

高雄山神護寺鐘銘并序
 愛當之神護之寺三寶既備六度無虧唯
 所有梵鐘形小音窄故禪林寺少僧都真
 紹和尚始發弘願有心改鑄範範未成衣
 祓早化檀越少納言從五位上和氣朝臣
 鼻範悼和尚之遺志尋先祖之旧蹟以貞
 觀十七年八月廿三日雇治工志我部海
 繼以銅一千五百斤令鑄成焉恐年代久
 遠後人不之知仍聊記於鑄側
 右少辨橋朝臣廣相

傳音在器
 銘一首八韻
 證果惟因
 余祖初業

厭孫幸道 宿昔三尺 今日千斤
體有寬窄 功無舊新 山聲萬歲
谷響由旬 聞宣覺夢 扣即歸真
慈周世界 感及非人 雕琢懸趣

蒙叟當仁 參議正四位下 勘解由長官兼式部大
輔播磨推守菅原朝臣是善銘
圖書頭五位下 藤原朝臣敏行書

當寺鐘樓再興從四位下 行侍從兼伊賀
守源朝臣勝重為驚三有之長眠而使一
切衆生證佛果菩提也

當山地藏院の林泉の客殿の座中より 溪間を隔は清池川瀑々と
かぐれ尾碕より谷崖を紅糸さすぬ新さし折々都の驛客
あみ来つて遊宴せ候といふ事さし洛北の佳境の其一たる

真雄ちこれ成るつとめ外やさしいと敷う川と
高雄文覺上人哥五首詠く系極禪門洋小持名岩其珍重之
井性抄

林四ノ五

佛法練行心通和可免之由記録社書載云又云文學上人の記述と
つくすは其故の道世の身とあふ一筋小佛道修りの外可也事
親考をたてあやうきまうせゆとありく条みくき法師さういつて
もんあひさかかへて程かちるるさう一者のあはほしを有るる
或時高尾法善會々西行まのつたの法やあからりたる者子と
是の法と上人あまきとと思ひく法善會もそ坊ゆらるる小
物やらんをさあう上人とそとつたれらるるいひし中者そは法に
結縁のたれみまきい今の日といひ一教は清居室みんやとて未てい
とひたれを上人うあまきとをひと引くありひける葉叶ひそる神
まきあうり藤子とあけくまちきり志つしほりてまき入るる入る
對面く年頃系々から見参入たはける神居居かきかき福ん
はみ物うろくく非時かき想を懸く次の朝之あかきとて光く
紅ゆらり赤子まきか巻つるま盡為みゆめる事悦思ひく上人と

とてせうしんを殺者おれとせりけり云云
特み人閑み清物語のいはる事日本伝めたるひんをこりたれあひい
らひかの法師ともやまの文学ふりこころおのつらうの文覺

仿中曼陀院の中視文覺上人の後院の後山に文覺の墓あり七月二十日

處望埋婦之
類聚國史云

延曆四年八月宣

受灌頂秘法是大法師修圓勒操等七人

為受法弟子於清瀧峯高雄寺奉為

此天皇修毘盧遮那秘法法師亦在其中

共稟灌頂三摩耶戒是則本朝灌頂始興

之日也中畧天長元年九月壬申三代格云以高

雄寺為定額寺并定得度經業等正五位

下河內守和氣朝臣仲世等言云昔景雲年中

僧道鏡以倭邪之資登玄扈之上辱僧法

王之号遂懷覬覦之心偏邪幣於群神行

推謫於倭黨爰八幡大神痛天嗣之頽弱

憂狼奴之將興與神兵矢鋒鬼戰連年彼衆

我莫邪強正弱大神歎自威之難當仰佛

力之奇護乃入御夢請使者有勅追引臣

等政考從三位行民部卿清麻呂而宣御

夢之事仍以天位讓道鏡之事令言大神

青麻呂奉詔肯向于宇佐神宮于時大神

託宜夫神大小好惡不同善神惡滿祀貧

神受邪幣我為罪隆皇緒枝濟國家寫造

藍除凶逆於一且固社稷於萬代汝承此

言莫有遺失清麻呂對大神誓云國家承

定之後必奏後帝奉果神願粉身殞命不

錯神言還奏此言遣時不遇身降刑獄遂

配荒隅幸蒙神力再入帝都後田原天皇

寶龜十一年敷奏此事天皇感歎親製詔

書未行之間遇讓位之事天皇應二年亦

之柏原先帝即以前詔普告天下至延

曆年中私建伽藍名曰神願寺天皇追嘉

先功_ラ以_レ神願寺_ヲ爲_レ寺_ト爲_レ定額_今此地勢沙
穢_不宜_ラ坦場_伏望_賢高_雄寺_爲定_額名曰_{神護國祚真言寺}

神皇正統記云備前

河内國_五寺_立神願寺_とい_は法_宗高_雄の_こ末_後一_立つ
今_の神_護寺_{あり}なり

後漢
おかし_く終_つつ_とは_れ老_くは_りの_老も_友也_{は_りん}

梅花無盡藏

遊_鷹尾_梅尾_其地_在洛_外四_五里

洛_外秋_風溪_有橋_見楓_無處_杖支_腰晚_梢

紅_老房_々路_嘯者_比丘_歌者_熊

北斗集

楓_林暮_雨高_雄道_中作

桂林

不_覺雄_峰遠_行盡_仁和_西更_西

默雲景

大隱

高_雄山_口號

紙_窓晝_暗覺_雲過_石燈_重攀_綠蘿_一月_往未_岩下_路熊_夫面_熱不_誰何_々

林四七二

色_系字_類抄_云

高_雄寺_原神_願寺_と號_一應_神天_皇の_神願_寺之_荒廢_中絶_の
の後_和氣_法齊_八幡_大菩_薩示_現有_く興_隆は_廢后_弘法_法大師

聖_跡一_く真_言教_とい_は寺_也傳_道本_朝真_言と_傳つ_る多_二番_也

元_慶八_年此_寺小_シなり_やあり_し一_く因_史ふ_るなり

納_涼房

懷_表抄_云今_納涼_軒あり_弘法_大師_本房_と也_{大師}の_教係_安なり

性_靈集

於_納涼_房望_雲雷_雷

雲_蒸壑_似淺_雷渡_空如_地風_滿房_祁
雨_伴颯_天光_暗無_色樓_月待_難至_烟魅_媚殺_人夜_深不_能寐_寐

猿_窟

土_人云_高雄_の親_野あり_む一_信教_大師_飛懸_の時_猿也_也

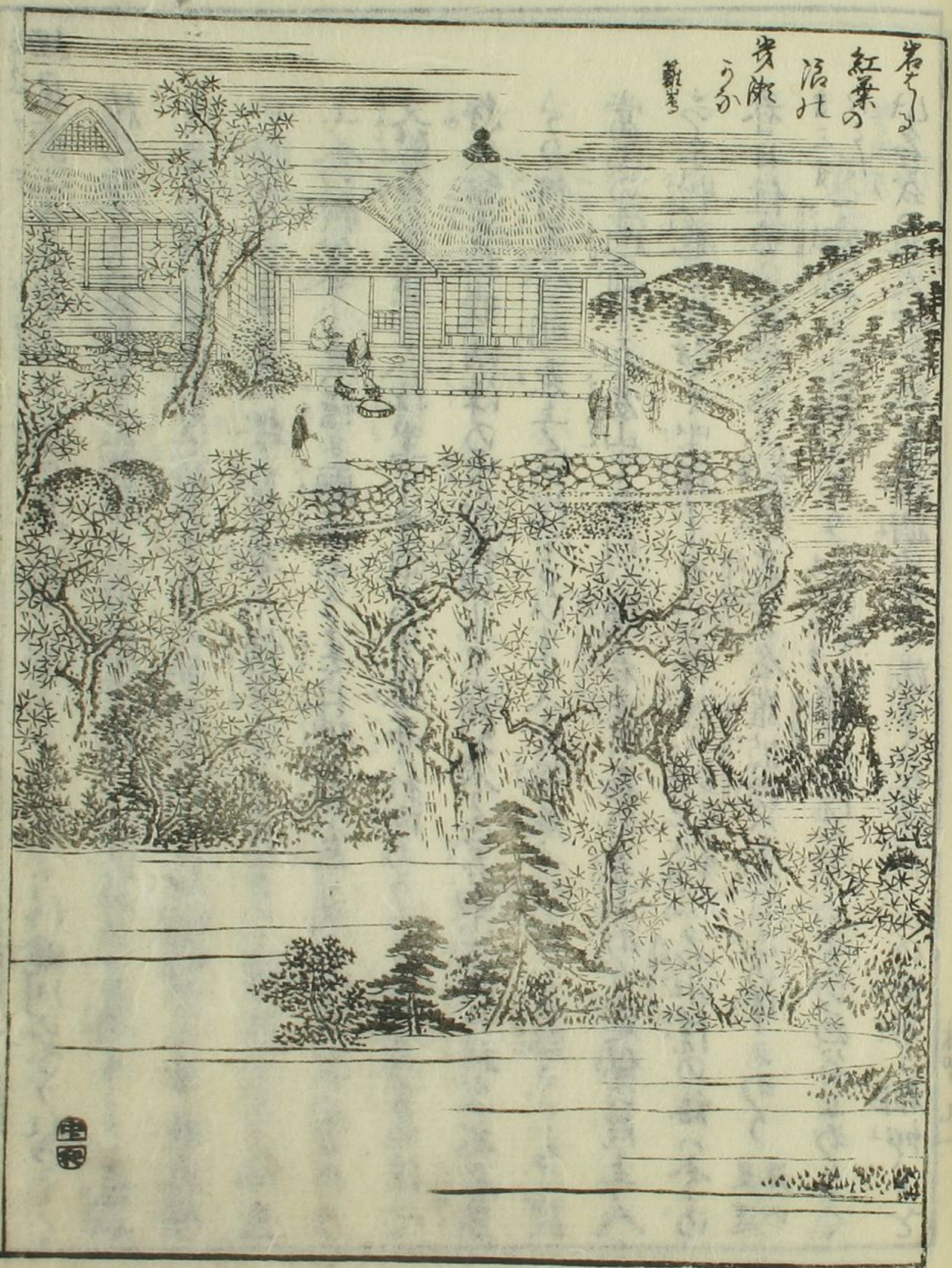
三_日坂

神_護寺_の南_十町_許若_妙村_小法_勝権_現の_きあり

植_尾

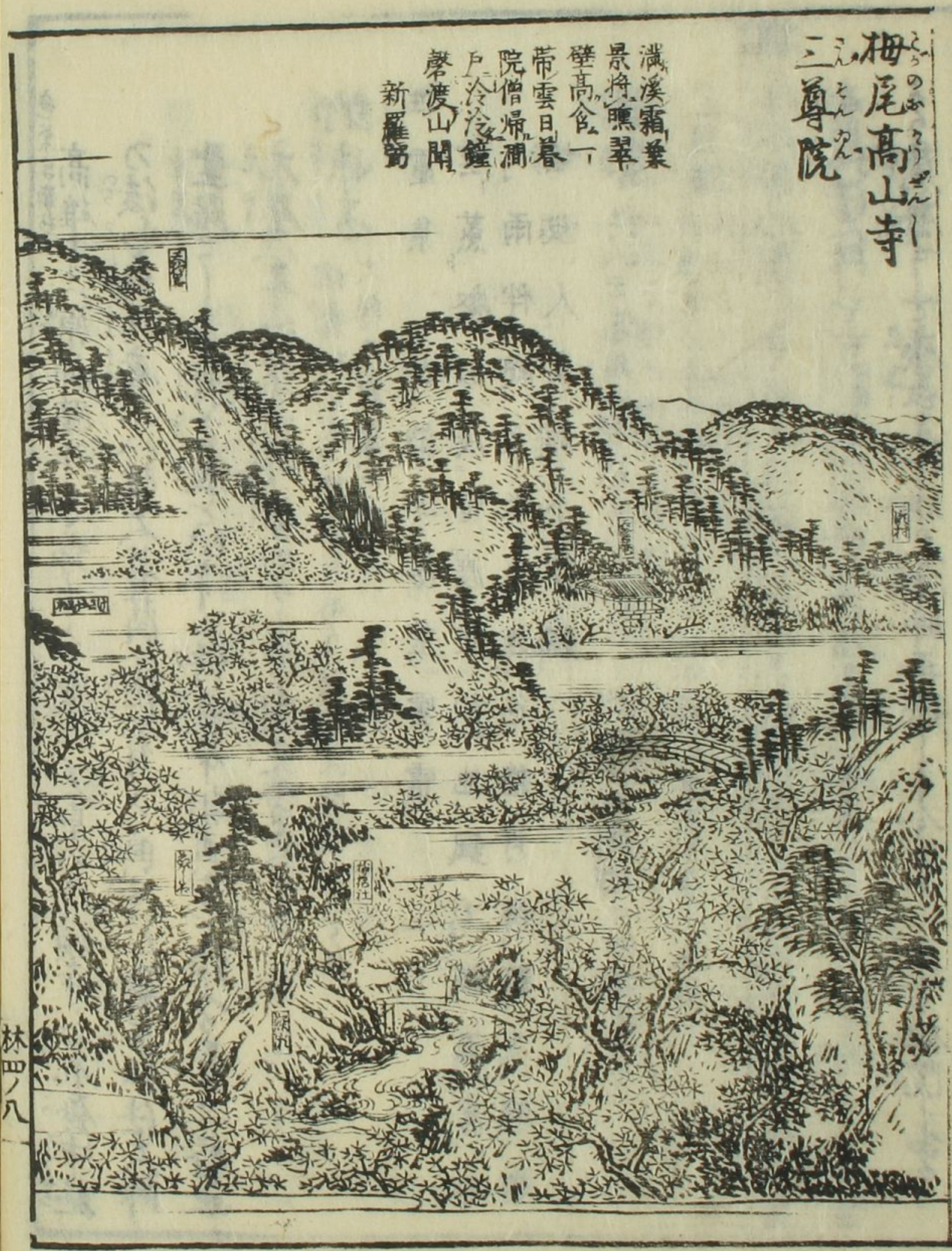
舊_弘法_大師_の上_智智_水園_基之_其後_弘法_大師_自記_一を_興つ_る中_古

より_荒廢_すと_慶長_年中_明忍_律師_再興_つる_今の_如直_言律_院と_{あり}



若くは
紅葉の
沿北
歩旅
うか
新羅

印



三尊院
梅尾高山寺

満溪霜葉
景將照翠
壁高食一
帶雲日暮
院僧帰洞
戸冷冷鐘
磬渡山聞
新羅

林四八

柘尾高山寺の林泉に二雄の其一なり同じく寺あり清瀧川のおづらきと
橋のやせり丹楓あり所あり寺説云上古住吉大神の遺蹟ありと建永
元年十月後を羽院詔下し明惠上人を同祖又の名を華嚴真隆
の精舎を本尊の釋尊を安し鎮守は春日住吉の二神開山堂の溪間あり
上人の教を安し其傍に廟塔あり春日神教同窟開山堂の溪間あり
文殊有明惠上人靜坐し中を文殊并教向ありと光明真言の法七
種の秘下持戒清淨の下と授與し中を今小岩西文殊の種字式取然
りり佛足の明惠上人の佛をひりり今谷底に埋れり在跡さうり
當山の高嶺と五層山とあり練若若の家の小あり建保の以上人
あり小竹菴を結びて坐禪し中を遺跡あり又の名を石水院の跡は今の
春日住吉の社地といふ又の名を花宮度羅波坊は春日山の中あり是建
永二年二加禪も其側あり又の名を禪河院開山堂の西谷ありと
は名義は西天伽耶城菩提樹の葉に流り居連禪河の地勢小相似ると

を何ぞ辨ゆべきか定心存といふ清瀧川の上あり寺七の邊
高弁上人明あさかて小院浄室にひたり文學坊よりそを小童
とんといひ思ひぬ人ありと相しとゆげと世間文學坊よりそを
あり傳ふん中にて死てたり法師ありと高雄又の名を住せたりとあり
ん入るありとあり高弁も住せたりとあり文學坊より高弁と傳ふ
番通とせせと云ふありたり高弁上人ありたりとあり高弁も住
教のりたりとあり持しとあり奥へ入る人も通ぬ所とせせとあり
とあり益けりとも高弁も住せたりとあり高弁も住せたりとあり
其飯七八人分とありとありとありとありとありとありとありとあり
扱の中小二三日も居りしありとありとありとありとありとありとあり
文學坊より高弁も住せたりとありとありとありとありとありとありとあり
高弁上人も住せたりとありとありとありとありとありとありとありとあり
高弁上人の弟子ありとありとありとありとありとありとありとありとあり

今たねも火もともさざりてとて聖教を足踏ふとて中子とも志すく
の所ふ文取く流中いそれをもばへはさるふさうく茶のたんで
けみあめりて志すくのみを宣ひたるゆきさうり一茶あり
かた夕暮るみ光るをびくことのみ今程に心のむむりのことさ
させ四月八日とて房を中く清瀧川のそとに成りて廿余所をのり
と成りて入る大なる石有せぬのゆりていひていひてありて
伽藍を中くのさうなる礎ありやありてん地石ふとやんる川にあり
とくゆきあまをあらけとありてき満くの物語して坐せしむるを
きくおとらんともそのえれ上りしゆきありてとも覺ぬり香座
一牧とて出りて光るも志せられたるふりたみゆつらるる事とも
彼石とて定心石とて名付られたるゆりゆきこの悟真寺の石も模せ
られたるもとて又繩床樹といふ松有その松座禪もあうりありとて
正月の頃松のゆきも居く観念せられたるふりありとて

本四十一

杉

若のうく松のあけふとて深の神ありとてやけりそのま
い外明恵上人親書の靈跡ありとて父子十余人を相具して天竺へ
ゆりんとせられたる南都春日大社にゆりてゆりてゆりてゆりて
あられたる麻六十段勝とありとて比ふとてゆりてゆりてゆりて
ゆりてあけに畧れ

梅尾茶藍綿 深瀬之本木 建仁寺茶西禪師入定一とて深瀬の時

茶實とて粒を將來一漢の小枝といふ茶器も勝くありて上人不修りて
却て地字に深瀬之本木といふ所に植られ天下茶園に初りたる其後
宇治里よりいへば梅の

茶のうくゆきあ

思ふふくぬるぬるふけむとてけせこのかたのまはれお州 ぬる上人

茶の上よりか朝あり挽茶節會とて内裏に訪く公事儀式と

りゆゆり小葉上傍正入座の時をく種とて後より梅尾明恵上人より二成

脱りてこれを梅尾宇治の名存る

明恵傳記云

建仁寺長老より茶を進せられとて殿内是は向かふ茶を遣困
消食氣快かつしむ徳あり然とて本朝いまして若くはゆりて
其實とて二粒植初られたる誠み眠を覺りて氣分晴と徳ありて衆僧

みし服せしえられ哉

寺記云

深瀬の園は高山寺の檜より東北の地より明恵初ま茗實二粒と極小ひし地は因茲梅尾茶は深瀬之本茶と称はは園今にあり其茶実二粒入る茶西禅師より進せしれ茶入と漢小抄少のいふ山とま一の器あり又云城州菟道郡蹄茗園は明恵上人の園ありやあり其初は菟道郡五箇莊の内之梅尾といふ冷の地温陽の地を求先茶樹は後し植んて上人馬小騎と巡見し五箇庄の内之和田一つの園地を得て梅尾より茶樹を分移し植ゆ其園は約蹄穀といふ可也

梅山の尾上は茶の本を植くは生一約乃蹄影 高井上人

其園はむろ菟道殿の茶園に平治の乱は荒蕪とていふ其後茶

園は久世郡宇治里に梅とあり上人茶は植初むひし古来

たり今小字法より毎年新茶と上人の影茶一畝せりといふ

高山寺和事記云

禁裏御所献茶梅尾諸房目録 地蔵院を袋田中坊を袋

中之坊二袋 園伽井坊三袋 東坊三袋

大樹公献茶梅尾諸房目録 地蔵院一袋 田中坊二袋 東坊三袋

寺奉行飯尾大和寺に十袋 中之坊二袋 入江坊一袋 己上十袋

飯尾左近將監に 式袋 高井上人書翰云 明恵上人初の名成辨具後高井と改らば

鶴禅房授與師範奉奉畏候又兼而仰候茶實未熟候之間

令熟候分聊進之候恐恐

尋時

高辨

高井上人御房 丈覺

古記云

明恵上人茶西禅師より乞得申茶実と梅尾といは極く其茶は初雁

し時の帝(献せり)岩上茶より茶味勝れと敷感有く都茗

と令之せんより岩上茶と鄙茗と云梅尾茶は本茗といひせり

高山義就書翰云

就佛内書之義卷數則日出度候は保連日初念之驗祝著候

猶初禱憑入候仍而茶到來云名物賞就極候事々期

朱信候恐

卯月十一日

義就判

田中坊ひ田中坊今の若殿院之は之録高山の室庫あり

龍巖集云 柵尾自古產佳茶而未知有各其

山及下清拙和尚集中同夢總國師遊柵

尾之詩始識古呼為茶山其詩云

幾重峰轉又谿廻行到茶山睡眼開

西齊詩話云

壽上人自日東其國所產以梅山茶

見惠賦詩謝幸得梅山信初嘗日本茶

尺素往來云

柵尾者此間雖衰微之體候名下不虛

遊覽往來云

見橋返鐘樓花禪河院云

林四十二

吾朝茶之窟宅以柵尾為本也開山禪師
依習禪勤行之障障魔為強敵為彼退治
降伏植茶而為精進幢傳賢首之大教窮
秘密之奧談故經云以因分可說但為利
益說之真詮為茶之末以果分不可說我
本無有言之秘宜為茶之本也邊上洛陽
之名山名所如雲如霧各誇其家之春雖
朝他山之景皆是為城州柵尾和州清滝
之末流也又云我朝之茗山者以柵尾
為第一也仁和寺醍醐宇治葉室般若寺
神尾寺是為補佐此外大和寶尾伊賀八
萬伊勢河居駿河清見武藏河越茶皆是
天下所指言也

茶壺往來言云

柵尾主との中國一の法師多く鄙の茶壺を製するからりそく
家合五本の茶壺たてて八十人のよりをりちおほくのりとはく
去庫の津よも若うり兵庫をすのく二月は柵尾も若くは茶の坊
谷の坊持小名園々々々如井の坊は技先を十斤半実れ茶壺より
入るふせおふく園とさくく下ゆ下思
近年寶曆中柵尾若園記抄で金龍道人著け茶壺界々々々は此の

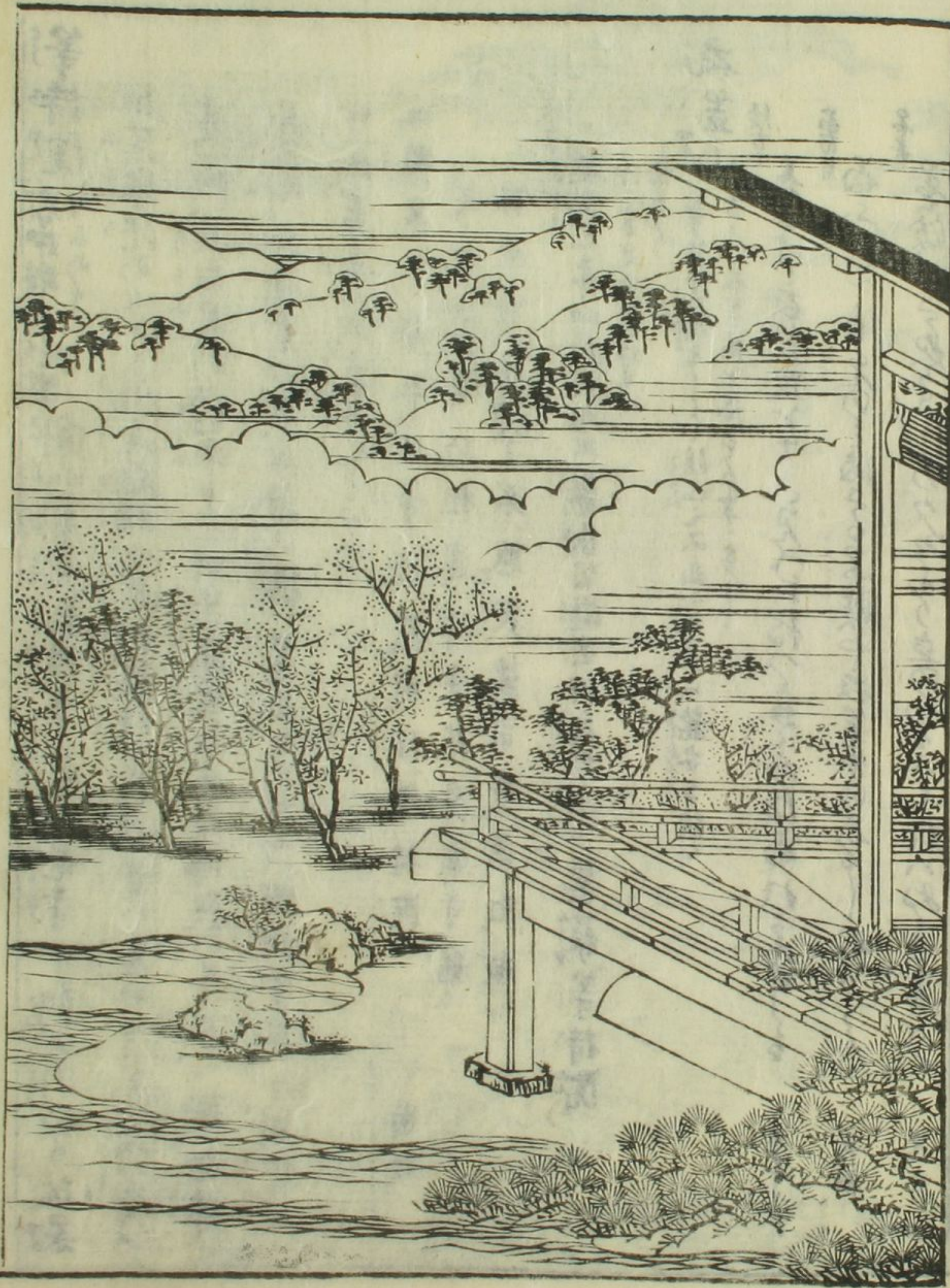


西園
 通安
 十餘家
 教君
 長北
 鳳台
 唐海
 院
 嗣法
 子嗣
 老
 寔耶
 遊之
 孝
 近體
 衣

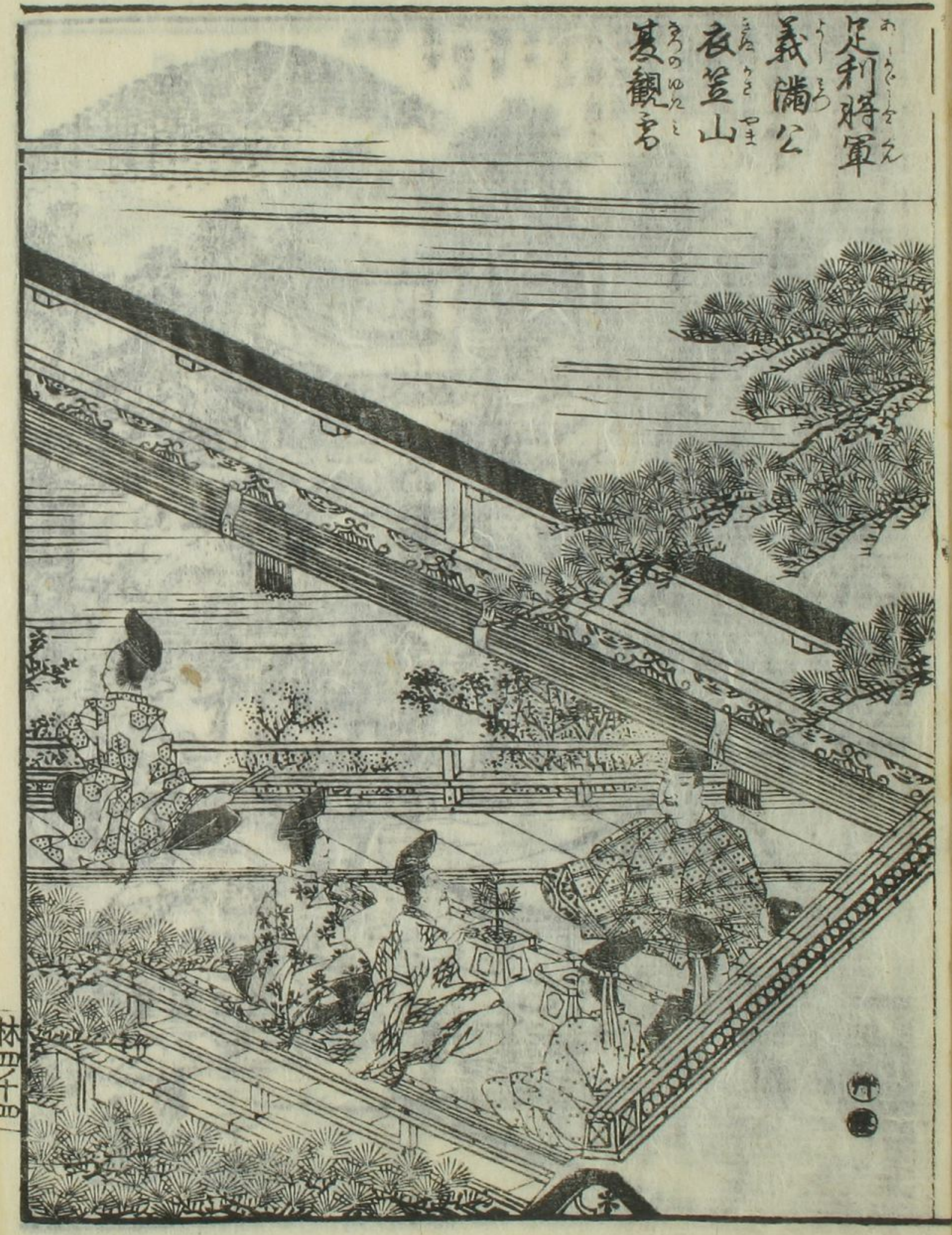


院持等
 美窓
 國師
 作

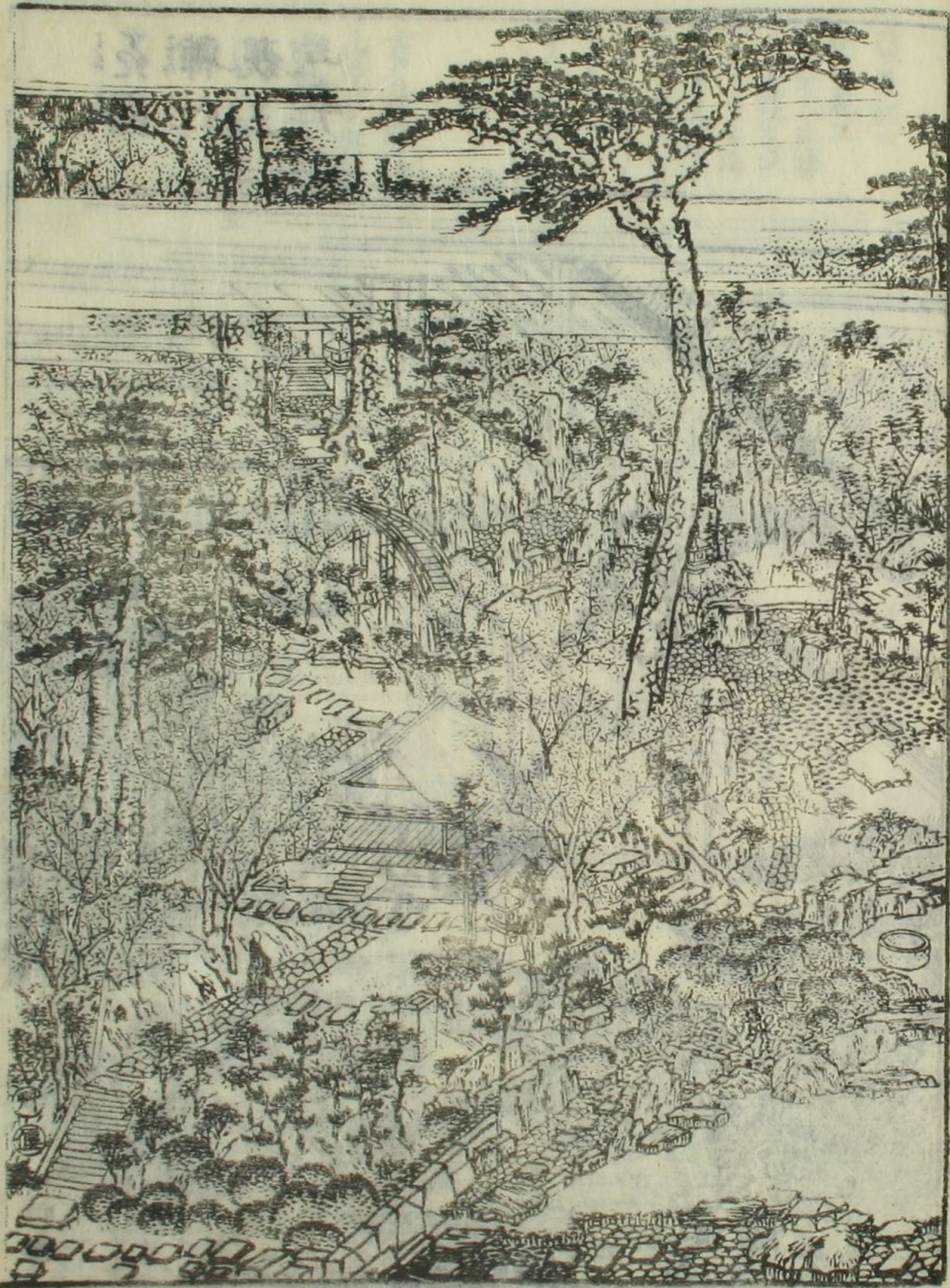
林四十三



足利將軍
 義滿公
 衣笠山
 夏觀書



林四十四



等持院

郡野縣等持院村あり

同山に養窓園ありとて又竜寺十刹の内なり被泉

小芙蓉池ありとて風色雄雅之足利家代々の昭堂に慈照院義政公乃
建つ所其後足利將軍十二世志本隆公安以佛殿の本尊に釋迦佛
左右阿難迦葉中央果證の額に尊氏の母公代牌所登真々同公代
室也蓋考に同息女とのり

五鳳集云 暮春北寺看花時住等持院

蘭坡

天公雀更巧相違北寺花多南寺稀

百萬買隣今不惡袈裟角裏落紅飯

太平記云

延文三年四月廿九日尊氏公逝去に夜笠山の麓に等持院

今方丈の後山也

夜笠山

等持院領ありとて後山と云ふ又西に至つて龍安寺領と
古人夜笠園と云ふ事あり

續古今

若みけに夜笠置とすらんひ枯つてせよはぬれまなり

清人

本居

ぬふれぬのりとのほらる子蔵や夜笠思のあつてり

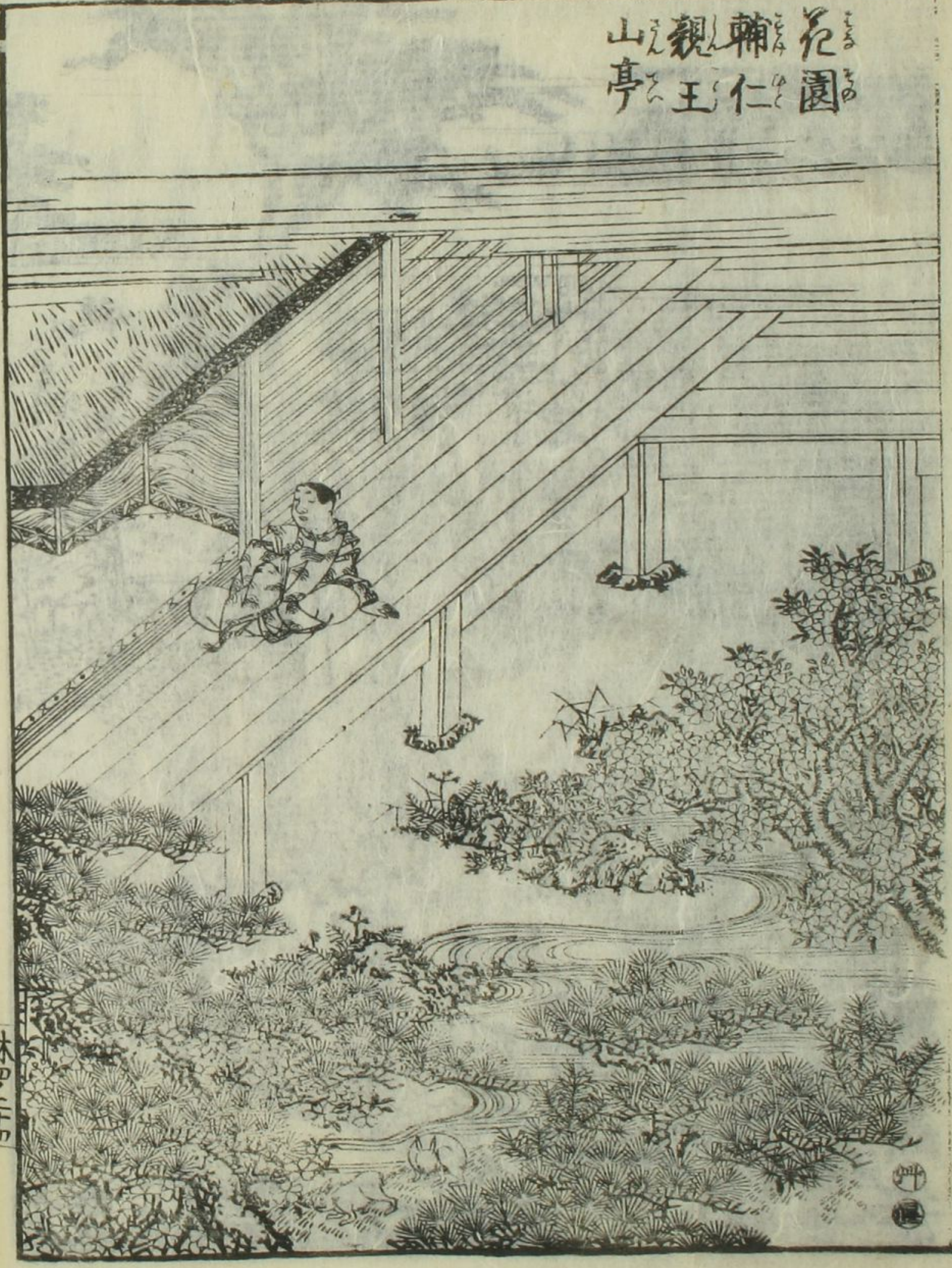
右藏

名書

墨波れさぬと心のくまなりまのりも祀りぬきあり

右秀

花園 輔仁 親王 山亭

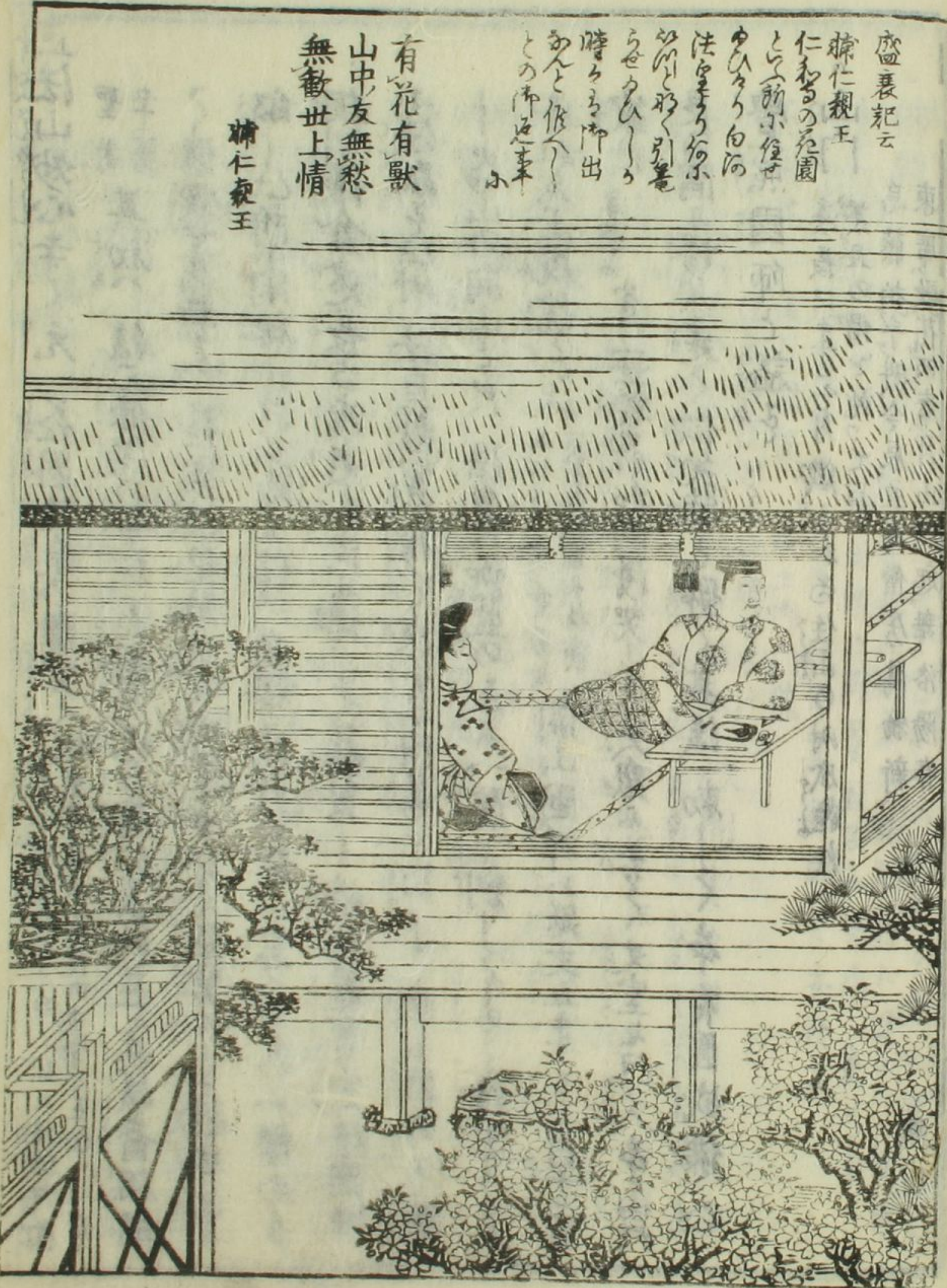


林四

盛衰記云
 輔仁親王
 仁親の花園
 とくす所不徒也
 中ひたり白河
 法をまろふ不
 必所と形く引毫
 らをふひしり
 時々る御出
 ぬんと依へし
 との御近事
 小

有花有獸
 山中友無愁
 無歡世上情

輔仁親王



正法山妙心寺と云 花園法皇の離宮之 人皇九十四代花園天皇と称す後深草院

聖壽 其初 後之條院の皇孫花園元久有仁の別荘之其後裔相繼

く傳領せり然る花園法皇地系公愛のひく離宮と云性禪法

般は初小南棟一移り信州高梨高家の孫も惠女といふ僧あり

相州深倉建長寺慶教和尚も渴して種發し洛北龍寶山燈國師

小法嗣といひ時法皇離宮と捨く惠玄小附属し詔し南山國師と號

し尚山の岡山といひ法皇の伽藍の東に一院を創し寺を淨坐し

あれが玉鳳院といふ 其の別宮も極次 岡山國師は延文五年十二月十二日

寂次 年八十四 才二世授翁和尚淺哭しと大衆も告く丈室も昇入本山

良の隅み塔を遠く微笑菴と號し其後 勅し寺有圓成佛心

覺照國師と蓋と

山門 慶長四年二月鐵山和尚住山の附成龍に 烏藤拍手叫令辰五百僧房萬物新 東席歌花西席月山門起舞洛陽春

鐵山

佛殿 龍華和尚住山の附文正年中彫刻和尚創建と則紅雲の塔

而文岡山國師の牌大燈國師の牌等厨子も安次 東乃方

又左佛 密守菩薩像其外 將軍家 神牌と安次又

花園院 後花園院 後土所内院

後柏木院 後赤松院等の神牌と安次

法堂 初は法堂を岡山二百回忌の勅勅建次傳云は堂乃

紅雲を本木の松二本各長九向半本口の徑五尺又寸

半末等し日向園よりあはれ求むる毎小板を削り左右

和し海中を浮れ舟子數十人本の上小板を削り又左右

右小板を削りあはれ繫を囀るは口小入津に

それより淀川と引せり淀の城下より 軒に紫せり

半七十頭と云ひく香厨より 宮内省の御司代板倉

伊賀侯の御所よりけく二條城の馬場を牽下立賣より妙心寺

其大棟の上も在る本道の若頭の数も三希といふ

と運送はは時初に人圖繪も画も彫り之造像も

堂の柱は花井紹海といふ人富士山の麓より 燈塔を伐出

覆椽畫龍 法堂天井の画龍は特筆探幽法守信の筆あり

龍は初北殿司紙も畫てあはれ板の上も貼次年久しくあり

板の上も畫さゆと守信に人希毫紙揮ひ墨彩成

施し眼も點むるの日傍り風も舞ふ

新造たるありて人みかたに
式百枚酒樽十樽成銘は
千枚二千枚の衆傍議
受他せだ衆傍議
と云初より書勞を當
此の初より書勞を當
李懐仁が畫龍も亦
日本み故

毘盧藏 法堂の東小あり當山の經藏之類ハ 伏見院の密筆
大坂院を巨庵といふ者黄金一千兩と

四派松 伴左の末あり初光樹の大松屈膝の
あり故

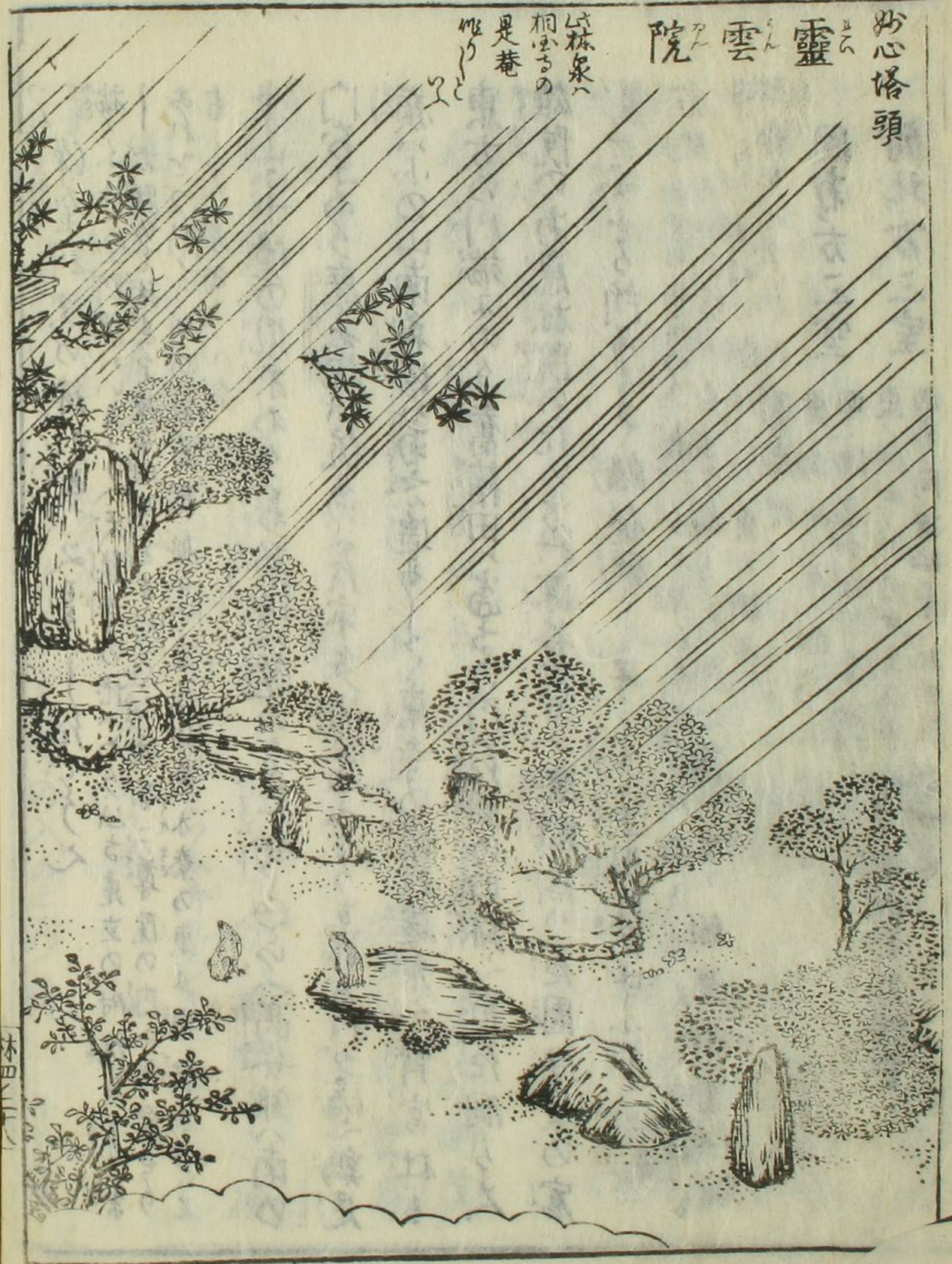
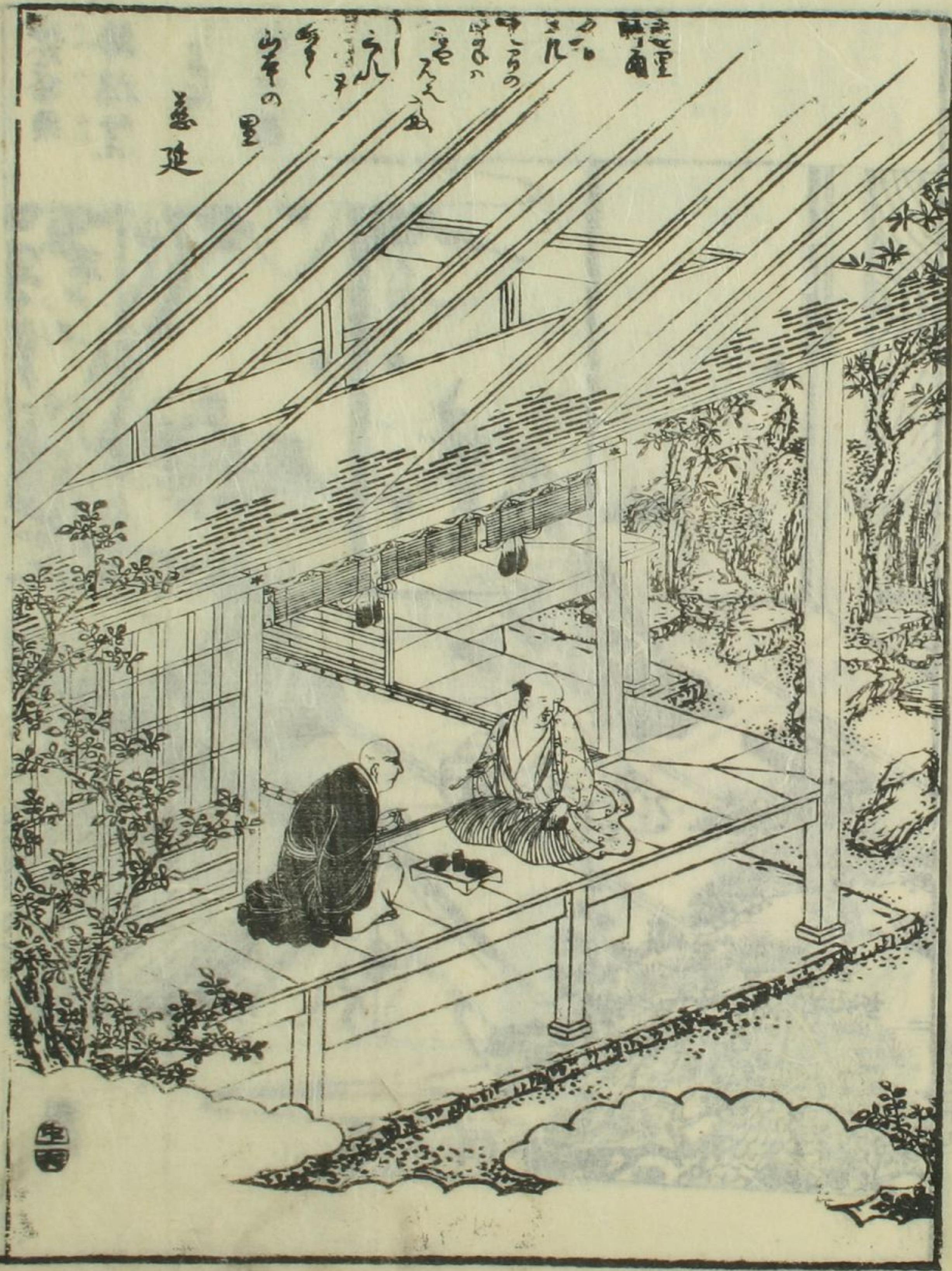
雪江松 伴左の末あり初光樹の大松屈膝の
あり故

鐘樓 鐘銘云

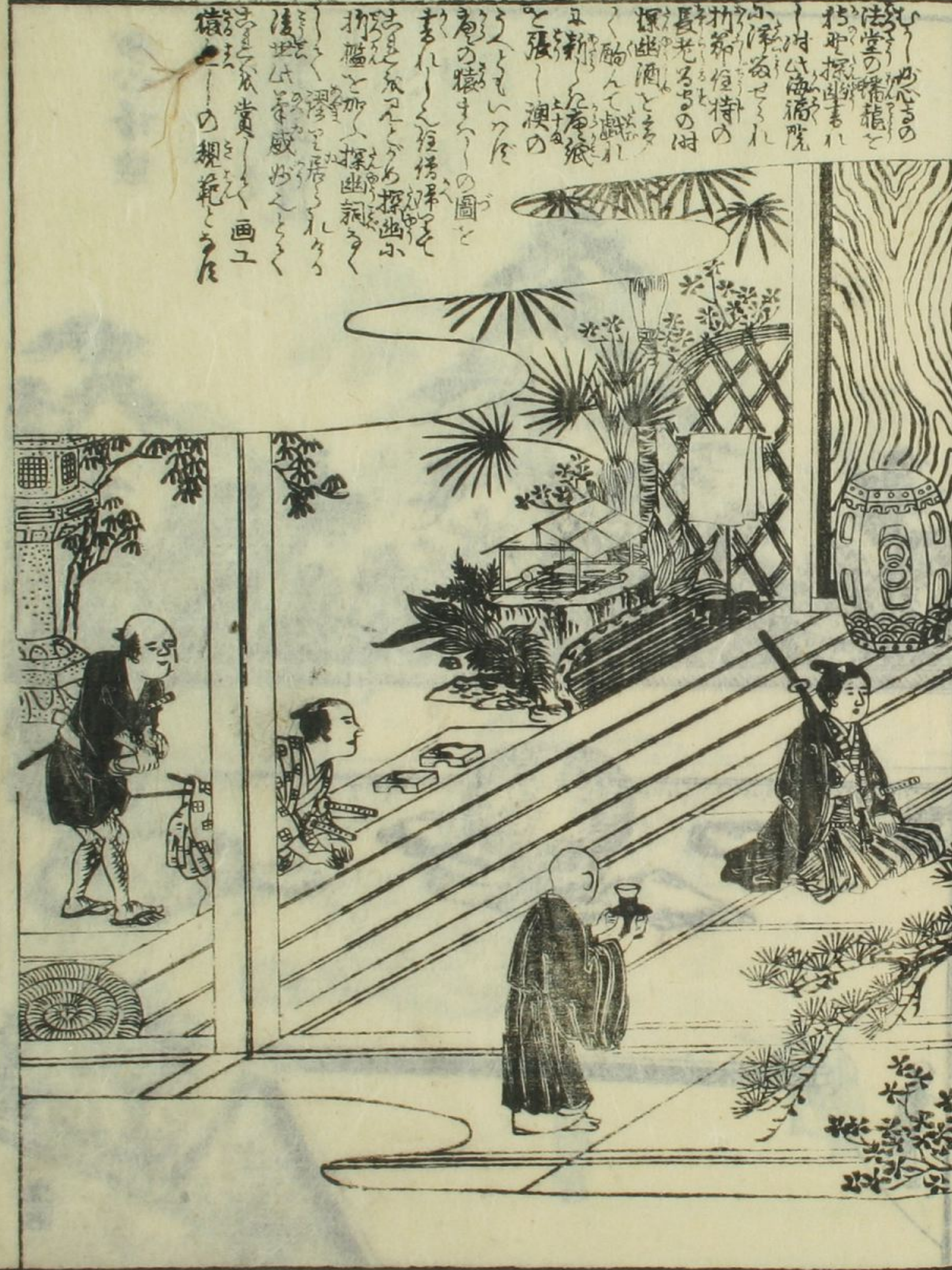
凡鐘者欲令聲大故必作蒲宇造鯨魚以
擊之則大鳴矣今茲清和天皇十代山
名氏義範公之後裔十代豐國公法名
禪高其仲子豐義公其阿娘天祥院殿
雲妙大厥慈母者木曾氏也妙大欲以
爲財修無爲果鑄巨鐘用寄附吾山其
牢也吼正法月則打破八萬八千縷
也聞洛陽城則驚散八萬八千縷
舍晨音徹梵天聽者得三德觸者解十
嗚呼這箇耳功德至矣加旃就干森
上座請銘不得辭厥銘云

見鐘在簾內空外圓樓臺高聳
虛谷聲傳鳴依小大德以聖賢
陰上煙雨晴吼霜天破恩蒙睛
驚煩惱眠洪音無盡信力彌堅
萬治貳巳亥年霜月念日

西鐘樓 方丈のあり
正法山妙心禪寺住持比丘森巖叟銘
戊戌年四月十三日壬寅收糟屋評造春禾連廣國鑄鐘



法堂の精舎を
 杖で探りまは
 けし海福院
 小澤をせり
 竹節恒持の
 長老ののり
 探幽酒とま
 く酔んで戯れ
 又新なる液
 と張つ澳の
 うらもいづれ
 倉の櫓まのの圖と
 まれん短傍探を
 せんとんから探幽小
 折檻と加へ探幽氣を
 後世はを感ぬんとく
 儀の賞しと画工
 の規範とるは



惣塔頭
 海福院
 名画
 縁也圖

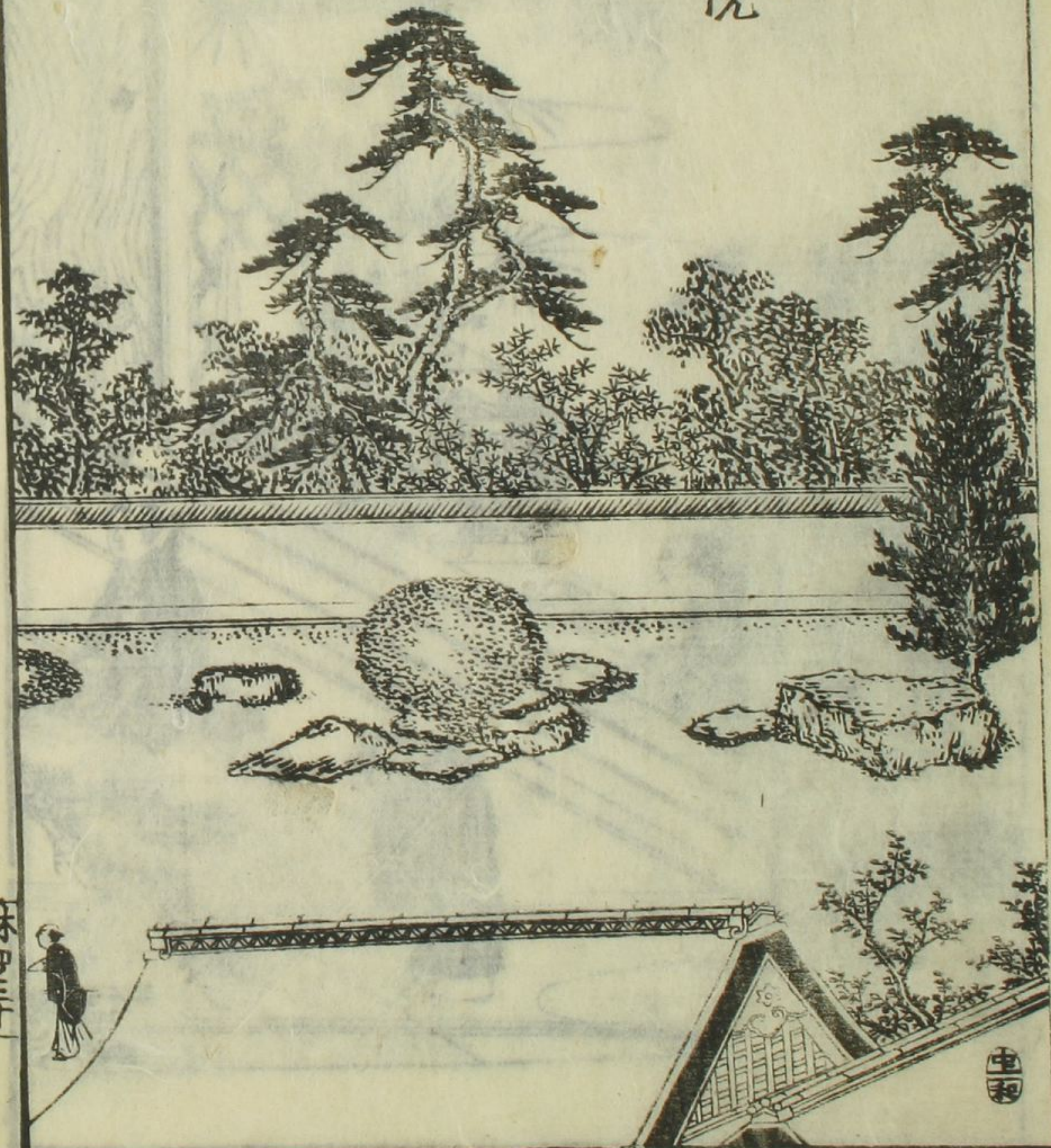


林四十九

此林泉ハ
 日蓮宗僧
 五淵の僧
 久松中此
 表の像
 十六羅漢と
 表もとも
 せしむ



妙心塔頭
 雑華院



林四十一

妙心寺方丈虫拂体

後西院再興繪方
 正親町院居成繪方
 後柏原院紫衣繪方
 後上清院再興繪方
 後清院宗門表繪方
 崇光院向山再興繪方
 桃園院國師加辨繪方
 東山院國師加辨繪方
 後西院國師再興繪方
 後奈良院國師再興繪方

後西院敷繪方
 光明院再興國師繪方
 後水尾院而土
 後水尾院持華歌
 後水尾院應無
 花園院南繪
 花園院辰繪

東室間上段

花園院辰繪
 花園院辰繪
 同
 花園院辰繪
 後奈良院辰繪

○花園法皇御存立の辰繪、鏡、御
 在御座を圖一存入御
 七、八、九、故、小、儀、身、影、一、存、入、御
 妙心寺方丈の辰繪

向山袈裟袋
 同 掛絡 一箇
 同 布衣 一衣
 同 七條 一服
 同 傳衣 一服
 金襴二十五條 一服

右東室間

櫻町院宸筆御剃衣
 同 藤環
 同 葛籠
 同 祥雲院殿 尚宗 一振
 同 准米道具教教品
 同 碓碓鉢盂 壹

○祥雲院殿の天筒秀若公の所賜品
 兼君の法号あり以下不見也

大應國師像 寧一山贊

虛堂和尚像 自贊

大燈國師影 自贊

龍圖 楊月向筆

東室次前 總張附山水符號源幽

大燈國師與關山國師印證

關山國師像 老江和書

關山國師與授翁和尚印證

虎圖 楊月向筆

因山國師像

如三講

豐于松閣像 李龍照

蓮華大像像 門無因筆

布袋和尚像 李龍照

八幅

八幅

羅漢像

同

大慈禪師墨跡

鶴圖

徽宗皇帝筆

策賢像

馬麟筆

鶴圖

徽宗皇帝筆

西室前

總張附 將野聖信

朝陽

梁楷筆

達摩大師像

顏輝筆

對月

梁楷筆

右三幅對

臨濟像

大慈和尚贊

布袋像

拾得

寒山

點庵筆

點庵筆

羅漢像

羅漢像

羅漢像

羅漢像

羅漢像

羅漢像

初祖畫像

二祖畫像

三祖畫像

四祖畫像

五祖畫像

六祖畫像

右十六羅漢祭山

觀音像

思恭筆

山水圖 唐伯虎筆

懸山德清 墨蹟

山水圖 唐伯虎筆

釋尊乳供像 吳道子筆

山水 牧溪筆

觀音像 牧溪筆
無準贊

達广像 古法眼筆

觀音像 牧溪筆

兔鳥

呂紀筆

山水

石鏡筆

仙逸圖

大觀明筆

柳葵

呂紀筆

鐵拐仙人

吳寧小仙筆

拾得

同

觀音

同

寒山

然可翁筆

小方丈花鳥圖

杉戶花鳥

山尚景画

同

龍 標幽筆

維摩 日筆

虎 日筆

右三幅對

出山釋迦 標幽筆

達广隻履像 益信筆。食堂

趙子昂墨跡

人物 東坡筆

日 日筆

畫錦堂記 織德筆

醉翁亭記 東坡筆
石楞八幅

七轉回屏風 府所加筆

此外永德已下山谷之數等屏風の
屏風 叔十品あり思ふ

屏風

雁六面 鶴六面 土佐筆

屏風

樗六面 紅身六面 永德筆

屏風

怒友松瓜擔て是以友松則小松て
女松降の屏画が並、永徳がれて総て
女松の屏画が並、永徳が解へて或時
傳云友松八人、永徳が解へて或時
三尖二面、歳半後二面共友松筆

屏風

巴鹿六面 三殿六面 龍梅六面
虎竹六面 俱友松筆

林泉多
 多し真の
 者院の画
 枯や水徳
 又ハ尚院
 木尚の予
 蹟之



妙心塔頭
 蟠桃院



林田三十四

卍

妙心塔頭

大嶺院



林四三十五

大嶺院の松林
藤村滿軒の
作



半起

○後水尾上皇宸翰

忍之乃眉をさし花を梅の

龜年和尚南園山園作二百年回之時香書云

一枝微笑梅耶杏

○豊太閤秀吉公御子兼君所持物

黄金作産衣鏡

黄金細工掛威

一鏡



○寶劍

兼君御守刀 鞘は黄金と云ふ 便初 羅不初の儀云 長七寸八分

傳云は寶劍一し 後藤太秀卿所持の鏡あり 根は寶劍云

近江國守田郷に於て 飛彈守氏卿の法裔 蒲生氏の若小傳 兼君の寶劍云

飛彈守氏卿の法裔 秀吉公の寵と兼君の 兼君の寶劍云

兼君の寶劍云 兼君の寶劍云 兼君の寶劍云

兼君の寶劍云 兼君の寶劍云 兼君の寶劍云

兼君の寶劍云 兼君の寶劍云 兼君の寶劍云

兼君の寶劍云 兼君の寶劍云 兼君の寶劍云

兼君の寶劍云 兼君の寶劍云 兼君の寶劍云

兼君の寶劍云 兼君の寶劍云 兼君の寶劍云

林四三六

○五鳳院

法堂の東方 初は所 花園法皇宸居の御殿あり 崩降の後

院跡に釘一 宸書の尊影と安並に南面唐門あり 時説云大坂

大坂金に散して 麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

名義の漢宣帝 麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

麟徳殿 名義と撰り 初は所 唐憲宗帝の書あり

祥雲院殿畫額 淨子兼君の 額 信長公 信忠公

秀吉公 武田信玄等の牌と安と木櫃の中央小紫銅三重寶塔あり
其の中唐本の 西小南無觀世音菩薩乃文字

ありの字ハ 後水尾院の淨瓜もく南都圓照寺宮文守尼の淨細工
一位局四辻大徳意遠卿の娘あり 後水尾帝淨賢水入りのひくは併号の

枯華室は初法皇の玉座之 右方丈東欄の東 額 枯華堂 額 江如清香

間の内小壁東方より安とく底のり金張附畫ハ 藤室
右の方袋棚畫ハ 枇杷 桃 柳 葡萄 蓋儀筆 其下違棚 金具 中臺厚疊上

小禱ありまれば宸坐あり

角山堂 方丈の 額 微笑庵 額 石江亭 角山の傍安と付別な作つ

行狀記と彫刻を其北高サ五尺 段階四級 欄干葱寶珠共小黒漆内
戸張水引練花唐織中糸の華鬘とわう内の中巻と三三三

關山園師像 長三尺餘 倚子小つ法服 袈裟 懸紋の純子小作 持ハ
每朝手水と典一又菓子鼻紙と供ハ

荒艸 不鋤 乃 祖 玄 涅槃 正法 妙心 禪
杜鵑 叫 落 關 山 月 誰 在 華 園 躑 躅 前

涅槃堂 同所東の方 額 淨賢像 長三尺許 倚子小つ法服 袈裟 懸紋の純子小作 持ハ

祥雲院殿 魂舎 同所の西の方 棄君像 長三尺許 倚子小つ法服 袈裟 懸紋の純子小作 持ハ

玉巖麟公 神童と号し 秀吉公の淨子あり 長政の娘あり 秀吉公

東山の 棄君像 長三尺許 倚子小つ法服 袈裟 懸紋の純子小作 持ハ

新 職 子 秀吉公の淨子あり 長政の娘あり 秀吉公

織田常信の子と云く 秀吉公の淨子あり 長政の娘あり 秀吉公

逆意あり妙心寺の南化派... 眞言新義の平寺と再興あり... 遺物妙心寺宝庫蔵あり... 風水泉 妙心寺あり

信長塔。信忠塔。武田信玄塔。同勝頼塔。信長 四男

信勝塔 一男。信豊塔 左馬助と号す

妙心寺塔頭

天授院 妙心寺二世授翁宗... 二月十一日 後醍醐天皇... 密に余所へり... 戒師とくく多年の儒冠と膝く十戒持徳の法解乃身と

於く遷化... 東海道... 拆藤房卿... 正平十一年 六十一奉の時妙心寺へ入る

和尚と称す... の禅林僧寶傳太平記之忠傳等小分明... 其の頃南朝日と追へる微りて尊氏將軍

権と握り威勢す... 事と厭く名瓜最と姿と愛とく諸國と渡りし清西よ來り

関山の法嗣と成り双園の東あり法上の... 大授院と開基し中へて大授の文字の南朝才四代帝後龜山院

多し又按ざる不授翁の授の字も... 北朝永和 渾て年號とく寺號とく例

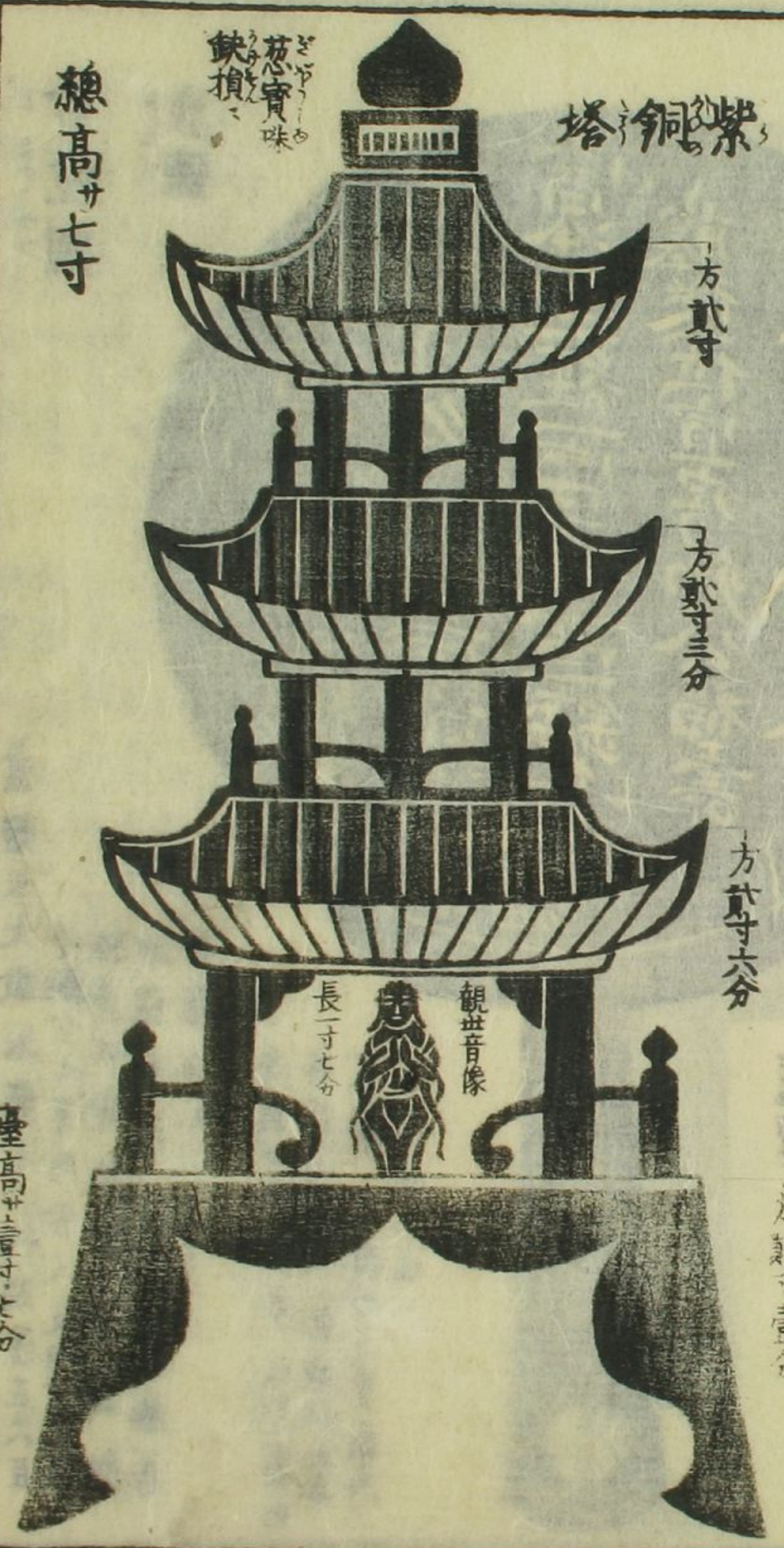
多し又按ざる不授翁の授の字も... 北朝永和 渾て年號とく寺號とく例

多し又按ざる不授翁の授の字も... 北朝永和 渾て年號とく寺號とく例

自稱小冠して南朝の君恩を報せ給ふ名賢の驗ありて往々の
 古哲深く考へ給ふ事あるべしとて、後西院の時時神光
 寂照禪師の勅益ありて其願より成れ給ふべし、持小迫年明和四
 年の、下野國都賀郡西見野村長光寺境内より掘出せし寶
 器あり、た小匱とあはせり、みく愈波定次は宝器領主より、將軍家の
 台後小佐藤、御紋の御櫃と賜ふ毎葉一皮、其領主より檢ある
 よりと、今せり、御小妙心寺の末院江戸半邊濟松寺の吹舉ふ
 といふ、官家へ申上り、今天授院に賜ふ、宝寶とあり、尚時に百餘
 年の后、七も忠賢と慶ひ徳と匿し給ふ事あれ、徳逸のいさだ
 よりと、みく、龍遠比干が諫め死し、伯夷叔齊が首陽と踏屈平
 が漢父の辞もいさだ、忠長名賢の清浄无塵空虛自性乃
 月乃、やう、う、あ、ら、其、願、山、國、師、より、外、へ、と、れ、と、を、
 おり、られ、る、は、

天授院宝寶
 藤房卿
 遺物四品

明和四年丁亥正月廿八日下野國都賀郡西見野村長光寺
 山壞一趾より掘出せし品類圖
 境内



臺高サ壹寸七分

古鏡圖

表體

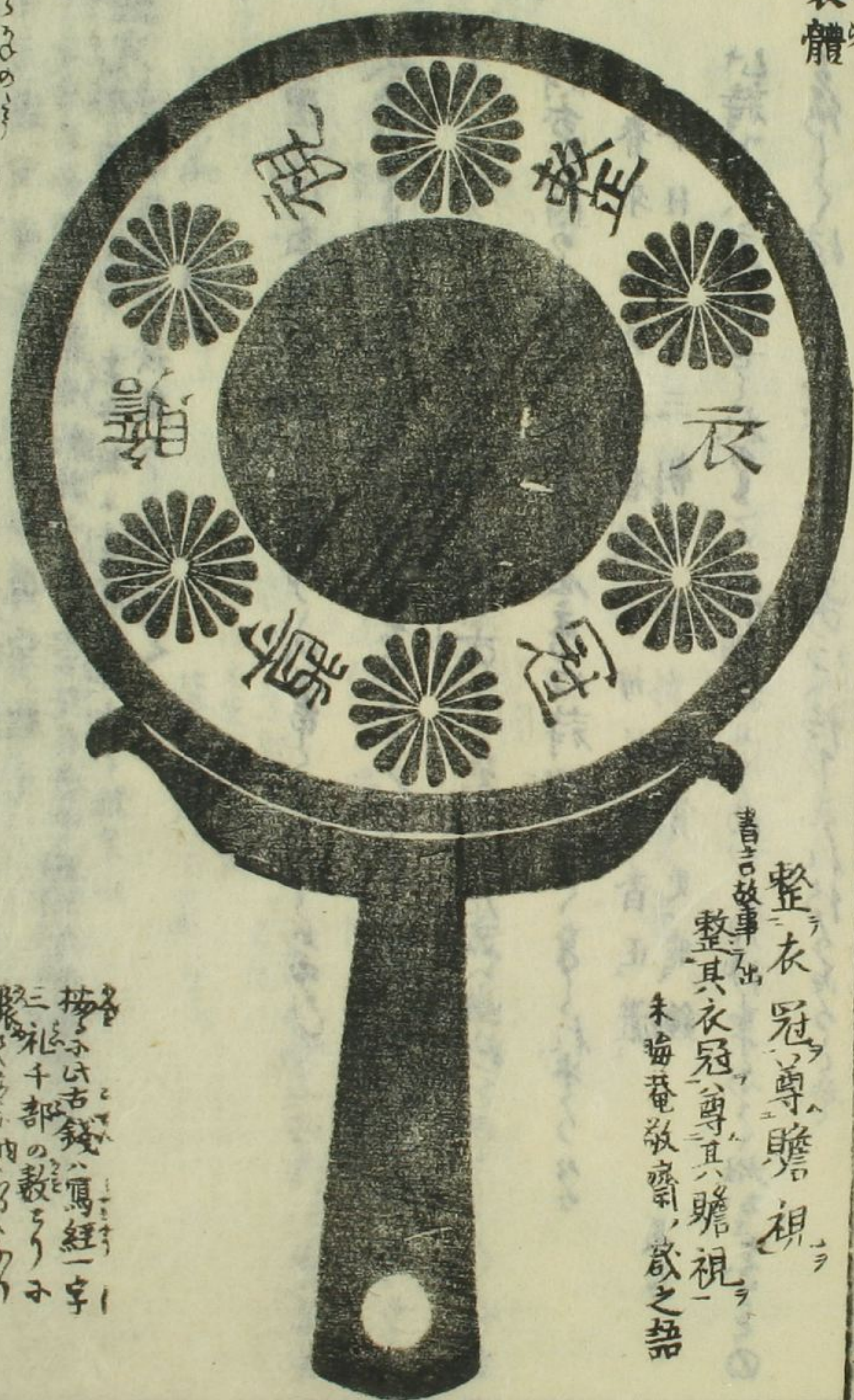


系譜云大猷冠錄足六代開院左大臣冬嗣公七男内舍人良門十二代經房時定經資經為經經俊資通宣房小路藤原季房云

貞觀四年壬午三月吉日
室祚貞久 藤原資通卿公
當塗主經字三礼區錢小音
藤原從位宣房卿公福壽

圓徑 二寸八分
柄長 貳寸八分
柄幅 上 五分 下 六分

裏體



書事出
整衣冠尊瞻視
未嘗發敬察 敬之語

紫銅塔

圖のめく塔内正觀一。古鏡一面。古錢九百九拾壹文。皇宋通寶 四十二文。元祐通寶 八十文。至元通寶 三文。至和通寶 五文。元祐通寶 四十九文。元豐通寶 百十九文。

至元通寶 三文
元豐通寶 百十九文

藤房卿髮塚 北岩倉大寺櫻若堂に置けり石階の軒を町并木の中

傳聞云く初め心寺小住す樹下菴祖芳と稱あり其人彼卿の古墳とみん

とく山岩倉のやちりと道遙とる小路の側より藤房の髮塚と云ふ小標札あり

弟林中入りてつる小荆棘ありてふ蔓と蒼苔落かりて之閑ふを刺てんは

文字もかへ標札と建一人を便ありてとてわろのふみぬれも曾て多人

もあつ固茲仰智瓜憑んて七七日の歩と運びて觀老竹折戻毒事治る

毎小古墳とあ次第二百小道日法醉の老人第力思心秘着者一と出

本古塚とれおと事取跡勝之祖芳昨嗜くおひ早く五香同てい石塚

このあ人の塚やんてぬれまれば万里小路藤房卿の髮塚と云ふ地不二房

回蹟之果は山岩倉實相院宮の候人上の京氏と云ふれを藤房の回蹟と云事

御殿の舊記小豫りてる後小今と云午年春暴風烈と云時塔の上根の蔓

之本の松倒したる其時塔も傾小焼ひたる小屋をうりて二月目の石室虚を其中

小銅の筒七守直守許ある少く筒中髪塚と云ふとおあり故小髮塚と

い事舊記小符合しく明白ぬれ近年我標札と建並くと語ゆる祖芳昨

人母怡悦しくあれ大徳の並應ありてお謝りも乃榛荆と移く遂す

天授院と云碑と建れりて い石塚小路名謂志り藤塚と号て瘡と疾ひ者

万里小路中納言藤房卿髮塔

記百八十字

記曰

山城州北、巖倉大雲教寺封境不二房、舊

址有基、石浮圖傳言、藤房卿髮塔、往昔

建武甲戌之冬、藤房掛冠追蹤、岩倉禮於

不二房法一、薙髮自爾、鏘彩、光居無定

處、此塔久、歷星霜、古貌歸然、藏髮銅筒、安

塔之中、央竊惟法一、追感、藤房賢德、建之

乎、藤房東、脩鹵練、後登洛西、正法山、受關

山、國師、衣法、遂為妙心禪寺、第二世、諱宗

彌、字授翁、救謚神光寂照禪師、是也、今

以、恐荆榛荒涼、不可識、彫刻片石、記其概畧、

寛政二年庚戌三月廿八日

祖芳焚香謹識

石工 九京 今津庄三郎刺之

天皇
後醍醐天皇は、後醍醐天皇は、鎌倉幕府を倒し、鎌倉幕府を倒し、室町幕府を建て、室町幕府を建て、室町天皇として在位した。室町天皇として在位した。

信長
信長は、信長は、織田信長として、織田信長として、豊臣秀吉に敗れ、豊臣秀吉に敗れ、自刃した。自刃した。

退蔵院
退蔵院は、退蔵院は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

退蔵院
退蔵院は、退蔵院は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

善源院
善源院は、善源院は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

如是院
如是院は、如是院は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

衡梅院
衡梅院は、衡梅院は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

龍泉菴
龍泉菴は、龍泉菴は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

東海菴
東海菴は、東海菴は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

靈雲院
靈雲院は、靈雲院は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。

靈雲院
靈雲院は、靈雲院は、徳川幕府の隠居所として、徳川幕府の隠居所として、徳川家康が建てた。徳川家康が建てた。



林
野
山



妙心塔頭
退藏院
此林名も
持世古法眼
作しと
上

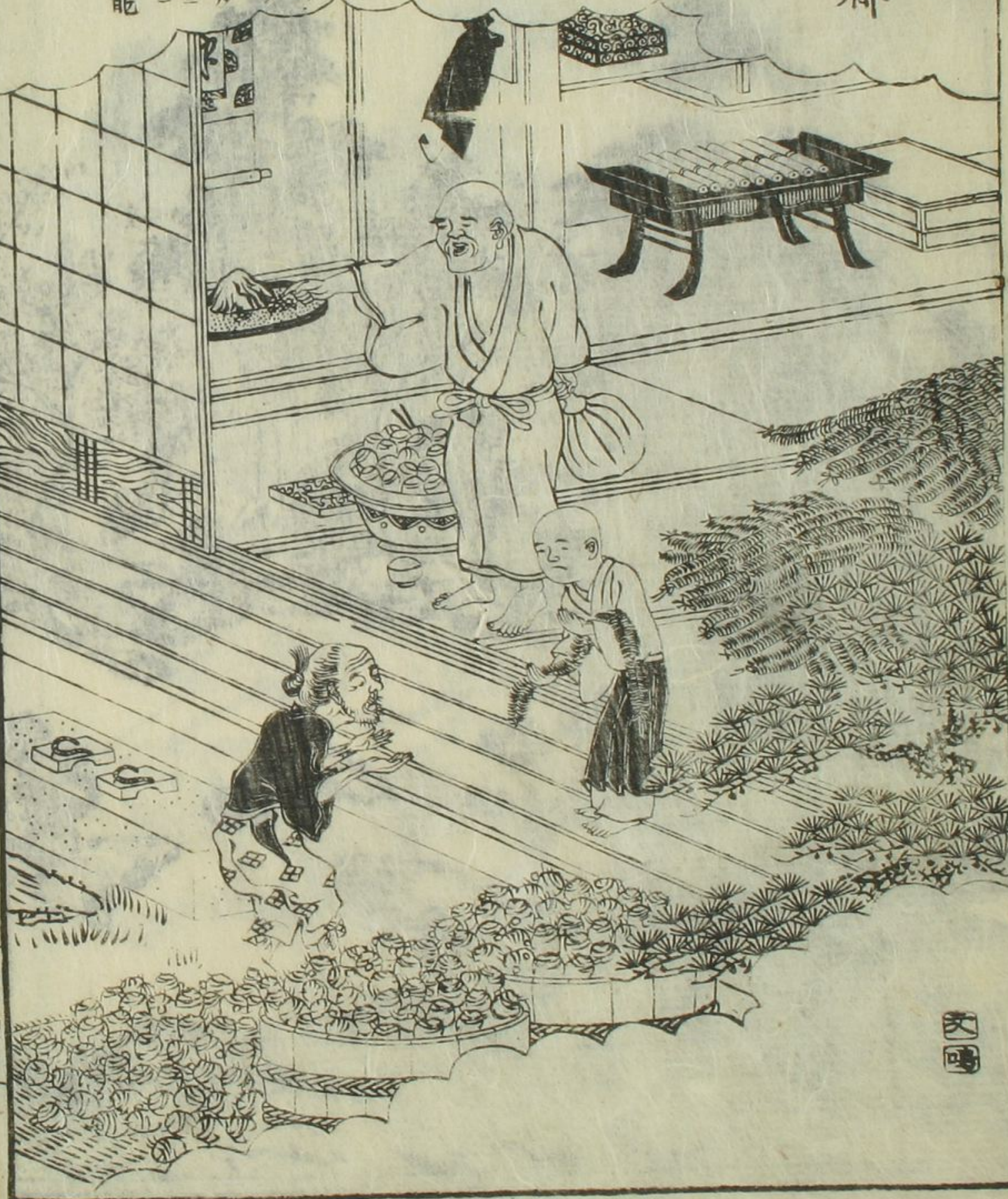
印

真宗院
芋喰僧都

芋の名れ
月小ゆらぐね

文暢
光りま

唯芋説法
籬種法延
況法盤中
顆核而境
原發名利
弄空土沽
上度換芋魁
畑雄龍



文暢

いもか
いもや
この世小
生れそら
芋丸
大江丸

狂詩

飛錫高僧好芋魁
枯鐘沽坊寶錢
堆一瓶一鉢渾
維芋水月入空
生芋臺

籬嵐



林泉虎溪を
 縮むといふ
 福富といふ
 名画あり世に
 其名きく



妙心塔頭
 春浦院



林泉

〇
 〇

○聖澤院 文德和尚創建東陽和尚と
勳徳し、向基次

右四派祖

○大通院 向基ハ湖南和尚ニ此人ハ初土佐國守の息なり、山水の賜多ク、
多ク一茶書成紀州禪林寺來山和尚ヲ奉ト、奇樹、奇石、岩、峯、山、水、
半正法誌小見、く、海、友、松、野、探、幽、寺、あり、い、主、馬、尚、信、の、事、あり、
の、雀、等、ハ、都、く、松、野、探、幽、寺、あり、い、主、馬、尚、信、の、事、あり、
の、雀、等、ハ、都、く、松、野、探、幽、寺、あり、い、主、馬、尚、信、の、事、あり、

○播磨院 尚院の林泉小奇石、岩、峯、山、水、の、賜、多、ク、
又三國志墨画、
松平土佐侯と

○海福院 一亩和尚ハ勳徳し、向基ハ禪宗の祖、
書院の撰、
猿、の、圖、と、画、く、住、持、水、の、上、に、探、幽、法、平、酒、狂、く、墨、画、み、く、
紙、の、根、に、州、画、と、書、筆、探、幽、の、至、り、と、其、事、が、松、野、探、幽、寺、の、名、物、と、
画、工、の、絶、也、と、い、ふ、後、世、は、其、事、を、賞、し、く、寺、の、名、物、と、
又、客、殿、の、画、ハ、水、唐、子、遊、百、牛、其、四、者、
ち、れ、み、か、特、興、意、の、事、あり、

○桂雲院 林泉の境あり
檀越石河藏人

○大嶺院 林泉系師庸軒の他
檀越八文字彦

○麟祥院 妙心寺門前の東本辻村あり、寛永十一年建立
檀越、
殿、と、い、ふ、小、松、と、い、ふ、内、の、總、繪、ハ、右、系、の、事、あり、
方、丈、の、叙、述、師、と、安、次、運、慶、の、他、ハ、
ト、々、と、い、ふ、阿、羅、ハ、新、作、額、ハ、朝、鮮、梅、邊、の、内、の、檀、越、の、画、ハ、海、友、
友、部、書、院、の、画、ハ、
初、探、幽、の、事、あり、
新、と、奉、く、跋、註、と、退、治、ハ、出、陣、の、時、畫、あり、正、曆、年、中、源、頼、信、
小、洛、の、色、み、く、文、滿、神、現、と、頼、信、ハ、加、護、と、い、ふ、終、つ、て、
活、み、く、神、現、ハ、出、陣、あり、
被、け、神、現、ハ、出、陣、あり、
今、時、世、人、志、持、幸、梯、お、れ、も、盡、験、日、々、予、新、
春、浦、院、檀、那、一、柳、土、佐、侯、

○春浦院 日所の南車街の西側あり

○海福院 一亩和尚ハ勳徳し、向基ハ禪宗の祖、
書院の撰、
猿、の、圖、と、画、く、住、持、水、の、上、に、探、幽、法、平、酒、狂、く、墨、画、み、く、
紙、の、根、に、州、画、と、書、筆、探、幽、の、至、り、と、其、事、が、松、野、探、幽、寺、の、名、物、と、
画、工、の、絶、也、と、い、ふ、後、世、は、其、事、を、賞、し、く、寺、の、名、物、と、

○海福院 一亩和尚ハ勳徳し、向基ハ禪宗の祖、
書院の撰、
猿、の、圖、と、画、く、住、持、水、の、上、に、探、幽、法、平、酒、狂、く、墨、画、み、く、
紙、の、根、に、州、画、と、書、筆、探、幽、の、至、り、と、其、事、が、松、野、探、幽、寺、の、名、物、と、
画、工、の、絶、也、と、い、ふ、後、世、は、其、事、を、賞、し、く、寺、の、名、物、と、

○海福院 一亩和尚ハ勳徳し、向基ハ禪宗の祖、
書院の撰、
猿、の、圖、と、画、く、住、持、水、の、上、に、探、幽、法、平、酒、狂、く、墨、画、み、く、
紙、の、根、に、州、画、と、書、筆、探、幽、の、至、り、と、其、事、が、松、野、探、幽、寺、の、名、物、と、
画、工、の、絶、也、と、い、ふ、後、世、は、其、事、を、賞、し、く、寺、の、名、物、と、

高院方丈の画と都々々々漢の茅人又林泉の虎漢の三笑と象と妙
系ありまの竹實と福富と名僧の戲画の世乃あり
妙手ありて画師評あり往昔の土佐家の茅威之警り
多腕傍心の書れ放屁軍師のり少く上へ文歴
ありて高貴を家一も上流の備へ世に名高し
○大光院 日向東側あり
其外如心寺境内塔頭都々々々八十餘寺あり名高し高貴諸度
の菩提所ありて故に予之譽見郎の
後とまくに著そののあり

辛

喰僧都舊跡 如心寺小内内封境を所詳むむく真系院といふ仁れさ
ありて園法皇仙傳と建せむん已るに山園内僅あり茶庵とて
ありて閑居一ありて茶庵の根破れくありたりは御目笠と被さ聖禪
のゆかりは附園師の故郷信州の人訪ひありは傳とてく矢止むるひ
金と出しあれみく茶庵と修補しつゝ園師されと見く人に
怒りけりてと説ふありに庭室の弊と傳へ早く去るを願ふと
金と共に出しられぬい人投られか言下り傳通して園師
の法益深と賞しと懇懇に礼敬しゆれたるを
真系院小盛親僧都とてあんとむた智恵者なりといふなり
とこのまにほくくひたり後養の産みくもれたる所ありたり

てまらやにをたはくひむく文とともみたりつたり半ありて七日
二十日ほど療治せりたりなりやゆふふら辛くうをえひて食を食
よろしの病なりとくくみまざるのほくひつりのまをひるまに
まらうりける師通とてまは二百里と坊を内とゆくうける坊は
百貫と書てわれま二万疋といふがらのわとてまらうりま
またて十貫と書うをて辛くうをとりうづりたるをふと用ひり
ゆる辛かくて其のあみふみ成りたり二百貫の也とまらうり身ふまはてかく
てかひるはまやま有つた道心老なりとて今下りは傍都或法師とて
まらうりはまらうりまをたりたりとて何れとて人のまはるまはる
まらうりありありは傍の如心僧といふまは傍都ありあり
つうく之合まらうり徳書學生奉説人ふまらるる宗の法燈あり寺中ま
おくまらるるまらるる世とくくまらるるまらるるのまらるるまらるる
うくまらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる

と云ふまに後口が赤いといふぬれをやくやくひらきをもちひてゆつたなれは
ひらきゆつたてゆつたをゆつた非時をいふひとく定てたつたを
した時衣かうにも時よもくひく存つたれは益もけこりていふある
大事のれも人の事とつれを自覚のれいれおのづかんとて
しそきつたあつたかともあはれはひらぬぬれをいふかやつたれ者
と後口ゆつたなれり徳のつれをさるめや

大應國師塔

妙心寺の南に所許安井村竹林の仲あり此地原國師
龍翔寺の文字に古を再興ふ及人則大徳寺の南山に燈國師の

傳云大應國師諱紹明字南浦駿州安部郡の巨族藤氏の子と
幼く駿州建徳寺津辨小亭の法の出世に學び年十五又
一々羅發一具足戒を受録倉建長寺蘭溪隆和尚に參
禪一正元の頃京國に入て偏く諸公と訪入時虚堂和尚

林四十一

津慈母技多道凡高峻學者敢て其門に登座事あり南浦
泰謂く機鋒相契入虚堂大予歡んて賓客五典一む
日夕咨扣小一日虚堂の頂相と換てく讚公持入虚堂
書くく曰

紹旣明白語不失宗手頭數算
金一國栗蓬大唐國裏無一人會

文永八年太宰府崇福寺小止錫より事二十二年泰徒日々熾之
嘉元の同部奉と京師小入 太上皇 後年 召て宮校小對し
向答 敷重小稱入 勅と下しと萬壽禪寺と主とすしむ延慶元年
臘月廿九日忽微疾ありて頌と書くく曰

詞風罵雨佛祖不知
一機瞥轉閃電猶遲

書一畢く加鼓く遊次 世壽 上皇哀慕しと已決勅しと圓通
大應國師と蓋ある寺と右京に管く額く龍翔と號し塔と後山
小築く普光といふ



寺閣金

一休和尚年譜云

寛正二年春遊嵯峨一路經西京入拜龍翔之塔荒涼僧火堂宇頌歌昭堂特龍山所營而獨無恙庫院最廢
 狂雲集感龍翔廢寺
 常住物誰用己身山門境致剪松筠
 殿堂只與花零落廢地秋風二月春

後宇多院塔 大應國所塔の在る所

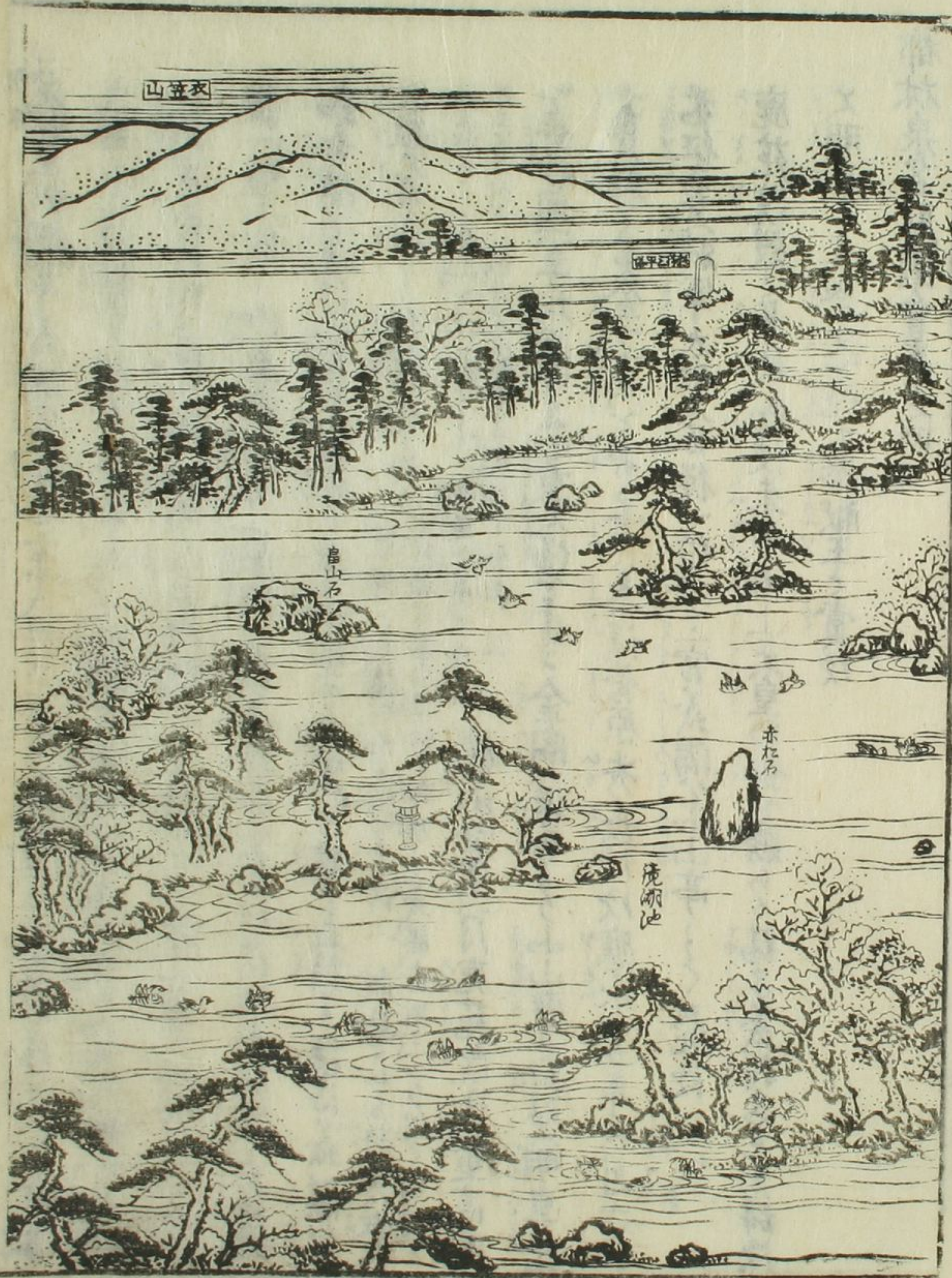
賀陽門院塔 安井村龍翔寺古跡竹林の岬あり五輪石塔廢成是なり

この女之龍翔寺境内に初賀陽門院の所跡に荒廢の後大應國所の徒史地記に云く國所の塔跡なり

鹿苑寺 玉皇の山あり世々金閣寺といふ原西園寺の廢跡に足利三代義満の別業を設け遺命ふりて寺とて大應國所と稱基を應永年中時々天子あはれに修葺せり

林泉居士重金閣あり香格盤小園園と並上と究竟頂中成潮香洞下

と法水院といふ故金閣の名あり池と鏡湖といふ八海あり御茶水と銀河泉といふ龍門瀑と裡魚あり安良澤と龍石あり明王院と石橋の不動と安次茶小波といふ獨活水あり春日の神と鎮守と實實の園と茶漢宣帝の宮といふ麒麟閣も比せんや



林四ノ五十一

〇足利三代將軍義滿公延文二年八月廿日京都御誕生童名春王の應安
 元年十一月征夷大將軍の宣下あり永徳二年室町に於て室町殿に号次
 館内より名を移し株之樹の對の人の所より同十二月從二位叙次同二年小
 從一位叙次一御直衣初あり永徳二年正月大官に任次同年將軍家紀州
 和歌浦小遊び又富士山に赴く應永元年將軍と長子義持より讓侍義滿公
 大政大臣に任じ兵杖宣下あり世傳義滿相國に任ぜんと侍朝延に於て許され故に
持家より畠山を降つたて朝延を廢せんといふ事あり應永五年六月鹿苑院に重高閣
と營む同二年相國寺に七重之塔を建てる金閣退居より小山殿と稱はる明皇帝
書成賜て黄金二千兩とある書は系後菅原秀長州次應永十五年八月六日
為征夷大將軍大政大臣從一位准二宮義滿公小山亭より薨没
鹿苑院殿に号次勅使朱帛太上天皇の號を賜る猶子義持より薨没
之明帝より祭文を作て恭獻王と賞没

都林泉名勝圖會卷之四 尾

早稲田大学図書館

011688994804